

# 立命館



## 父母教育後援会だより

A Magazine for Parents' Association Members  
of Ritsumeikan University

2008年度 冬号 | Winter Issue

### 父母教育後援会より～行事報告など～

- 2 秋季全国父母教育懇談会
- 19 RITSUMEX '08
- 20 アカデミック京都ウォッチング
- 24 キャンパスにAEDが増設されました!

### 学生生活について～勉学・課外活動など～

- 26 CAMPUS LANDSCAPE
- 30 新入生父母アンケート結果報告
- 32 立命館のゼミナール訪問① 小木ゼミ
- 34 立命館のゼミナール訪問② 飴山ゼミ
- 36 保健センター 健康通信
- 38 輝いています、ときの人

### 学園よりお知らせ

- 39 2007年度財務報告・2008年度予算(概要)
- 40 学生のスポーツ&イベント
- 42 学園トピックス

二〇〇八年度

# 秋季全国 父母教育懇談会

十一月二十二日(土)、京都・滋賀が美しい紅葉で色付いたこの日、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで、「秋季全国父母教育懇談会」が開催されました。全国各地から二千百名に及ぶ父母が参加し、賑やかな懇談会となりました。

「学生生活講演会」「進路・就職説明講演会」の後、各学部に分かれて「学部別懇談会」「グループ別懇談会」とプログラムは進行。父母は、希望のプログラムに参加し、お子様の学生生活や進路についての解説や報告を熱心に聞き入っていました。また、この日は父母教育後援会委員が出席する委員懇談会も開催され、今年度の事業計画の進捗状況が報告されました。

11:00 ~ 12:30	学生生活講演会 進路・就職説明講演会
12:30 ~ 13:15	委員懇談会
13:30 ~ 16:00	学部別懇談会





千宗室父母教育後援会会長

最初に父母教育後援会名誉会長の川口清史立命館総長・立命館大学長が挨拶し、今春開校した薬学部、生命科学部の順調な進捗を報告。「二〇一〇年には、スポーツ健康科学部（仮称）と研究科を設置する予定です」と新たな構想にも触れ、今後は国際的な大学として、さらなるリーダーシップを発揮していく決意を述べました。加えて「立命館大学は『学習者中心』をキーワードに教学改革を進めています。四年間を通して成長する仕組みを整えたいと考えています」と語りました。最後に現

### 「学習者中心」の教育を推進し 学生の成長を支援する

衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで委員懇談会が開催され、全国各地の父母委員と大学選出役員、総勢百二十一名が集いました。「テレビ会議」を通して二会場が全員が耳を傾ける中、総長、会長の挨拶や大学選出役員の紹介、二〇〇八年度事業の進捗状況が報告され、その後は各キャンパスで多様な意見交換が行われました。

## 衣笠・BKC 委員懇談会



在、社会問題となつていゝ大卒や経済不況についても触れ、万全の対策を取つていゝことが伝えられました。次いで千宗室父母教育後援会会長が挨拶。「昨今の報道などから立命館を心配する声も聞かれます。しかし立命館大学には自省・自浄する力があります。今後も豊かな学びを創造し、我々の期待に添えてくださるだろうと確信

しています」と語りました。その後は肥塚浩副会長・副総長、森島朋三顧問・常務理事から大学選出役員が紹介され、建山和由幹事長・学部長から二〇〇八年度事業計画の進捗状況が報告されました。

### 課外活動で活躍する学生をサポートしたい

各キャンパスに分かれての懇談会では、委員からさまざまな発言がなされました。衣笠キャンパスでは、黒川恵美千葉県委員が、立命館大学の多彩なサポートを活用し、留学、インターンシップ、ゼミ発表など、学びを謳歌する自身のお子様について報告したの続き、岡容史島根県委員から十月に行われた出雲駅伝の様子が伝えられました。学生の健闘が称えられると共に、課外で活躍する学生へのますますの支援が誓われました。

びわこ・くさつキャンパス(BKC)では、三島滋夫島根県委員から、喫煙シエルトー設置に対する評価に続き、石津博睦福岡県委員からは、就職活動支援に関する質問が出され、大学の意見交換となりました。



### Parents' Voice in 衣笠

#### 有村 さんご夫妻

政策科学部4回生・兵庫県

内定をいただいた娘が、学部懇談会で就職活動について発表するので参加しました。我が家は親子のコミュニケーションをとっている方だと思いますが、今日は親子が互いについてどう思っているかを、客観的に見られるよい機会になりました。信じてあげなければいけないところは信じつつ、口出ししないことも大事。今日は夫婦で参加でき、とても満足です。



### Parents' Voice in BKC

#### 田島 さんご夫妻

理工学部1回生・愛知県

入学前から、学生へのサポートがしっかりしていると聞いていたので、実際にはどのように学生に接しているのか、学校側の考え方を知りたくて参加しました。実体験を交えた講演を聴き、経験や自己決定力、情報収集・処理能力が息子にはまだまだ足りないと思われ、今後どうサポートしていくべきかを考えるいいきっかけになりました。



衣笠

# 進路・就職説明講演会

進路・就職説明講演会では、「学生と卒業生が語るほんとの就活、ほんとのキャリア」をテーマに、就職状況の現状や対策が解説されました。衣笠キャンパスではキャリアセンター事務部長の説明のほか、企業で活躍する卒業生、今年内定を決めた四回生が、当事者の立場で就職活動についてアドバイスしました。

## 学生・卒業生のネットワークが就職活動をサポート

ト・リーダー（PL）といった、学生の就職をバックアップする仕組みについて紹介しました。

## 企業が求めるのは多様な経験を経て成長した人

平井英嗣キャリアセンター事務部長の挨拶から、進路・就職説明講演会は始まり「昨今の経済の悪化により、就職状況も厳しくなりつつあります。しかし現在のところ、立命館大学生が内定を取り消された例は報告されていません（十一月二十二日時点）。立命館大学のキャリアサポートは全国でも屈指の

高い評価を得ています」と説明しました。平井部長は、キャリアサポートの柱の一つとして「ステューデント・ネットワーク」を挙げました。また、卒業生による

（政策科学部四回生・独立行政法人宇宙航空研究開発機構「JAXA」内定）は、進路を決めた経緯を振り返りました。三回生で所属したゼミの指導教授から「二十年、三十年先を見据えて進路を決めなさい」とアドバイスされたことが進路選択の決め手になったという渡辺さん。「宇宙」という人類共通のテーマなら将来にわたって追求できると思いました。三回生の夏、JAXAでインターシップを経験したことで、さらに意欲が高まりました」と語りました。そして「時間がかかって自分でも進路を決めるのを見守ってくれた両親、面接指導などでサポートしてくれたキャリアセンターに感謝しています」と結びました。

経験から学ぶ力を育て  
人生観を確立する

学生二名の話を受け、平井部長が就職状況について説明し「二〇〇七年度の進路決定率は、八六・三％と全国でもトップレベルを誇っています。次年度以降は厳しい採用が予想されますが、過剰に反応する必要はありません」とアドバイス。「社会に出るまでに必要なのは『人生観』『世界観』そして『社会観・職業観』を確立することです。それには『経験から学ぶ力』を育成することが不可欠。それを可能にする教育を今後も推進していく所存です」と語りました。また父母のサポートとして「共に話す」こと、そして子どもが決めるのを「待つ」ことが重要だと話しました。



キャリア・アドバイザー（CA）、内定者によるジュニア・アドバイザー（JA）、さらに三回生のプレイスマン



続いてCAである白川真由美さん（法学部卒業・イオンリテール株式会社勤務）が、採用を担当した経験を踏まえて、企業で求められる人材について語りました。「立命館大学には多様な入試制度によって個性豊かな学生が集まっています。私自身、学生時代にさまざまな学生と交流を深めたことで、対人能力や対応力が磨かれました」と話し、さらに「企業が求めるのは、さまざまな経験を経て成長を遂げたと感じられる人です。立命館大学には、経験を積むチャンスがたくさん用意されています。エクステンション講座を利用して資格を取得したり、留学したり、あるいは課外活動に打ち込んだり。大学を最大限活用したことで、自身の成長につながりました」と述べました。JAのリーダーを務める渡辺拓真さ



◆キャリア・アドバイザー（CA）…卒業し、実際に働いているOB・OGによって構成されており、在学生との懇談会に参加するなどして、就職活動支援を行います。

◆ジュニア・アドバイザー（JA）…就職先が内定した四回生および大学院生によって構成されており、下回生に対して就職懇談会や就職活動の体験報告会などの就職活動支援を行います。

◆プレイスマン・リーダー（PL）…各学部三回生のゼミから選出され、ゼミ内の就職活動支援のリーダー的役割を担います。



## BKC 進路・就職説明講演会

BKC各学部を対象とした進路・就職説明講演会では自分らしい学生生活の過ごし方や社会に出てからの働き方について、JAの学生とCA（用語の説明は前ページの囲み参照）である卒業生からリアリティ溢れる実体験が語られました。

**いま会社が求めているのは  
「自ら考え動ける人間」**

まずはCAの鳶川雅之さん（理工学研究科修士課程修士・東海旅客鉄道株式会社勤務）が壇上に。鳶川さんは、一九九八年に理工学部電気電子工学科へ入学し、その後、大学院へ進学。現在は、超電動リニアの開発に携わっています。「今の自分から辿るエントリーシート」と題して「会社概要」から始まり「エントリーシート①〜④」「エントリーシートを振り返って」「学生に求めるもの」といったタイトル別に、どのように就職活動に臨んだかを語りました。学生時代、熱心に取り組んだスイミングスクールのインストラクターのアルバイトや、鉄道研究会サークルで機関

誌編集長を務めた経験を振り返り、最後には社内採用に関わる立場から「学生の特権である自由に使える時間を有効利用してさまざまな経験を重ねながら独創性を育て、逆境に強い人間になることが必要です」と締め括りました。

### 大学生活での経験を どう生かすかが成功の鍵

続いてJAの内藤ひとみさん（経営学部四回生・株式会社愛知銀行内定）が、自身の大学生活および就職活動について話しました。「大学生活での取り組み」としては「所属していた雅楽会で第九期会長を経験したことで、忍耐と柔軟性を得ることができました」と語りました。またオープンキャンパススタップとして企画運営に携わった思い出についても触れ「私の青春でした」と笑顔。続いて「就職活動の軌跡」として、三回生秋から開始し、四回生の六月に内定を得るまでの流れを説明し「スケジュール管理が甘かった」「自己分析を始めるのが遅かった」「情報収集不足」という反省点を挙げる一方で「多く



の人と出会い、弱い自分を認める力を得ました」と就職活動を振り返りました。最後に「自分でコレだ！と思える経験をすることが大切。さまざまなことに興味・関心に向け、視野を広げてください」と結びました。

### 見守りながら育てたいのは 「自己決定」できる能力

CA、JAからのメッセージを受けて、就職状況や社会が求める「力」についてキャリアアセンターから説明がありました。過去の就職状況グラフや卒業生のアンケートをもとに「採用活動では将来の夢、目標、能力や資質に潜む『成長の可能性』が評価されます。つまり学生生活の充実度が、確実に将来（就職）を左右するのです」と解説しました。さらに父母へのアドバイスとして「将来何をしたいかという問いには、簡単に答えを出せません。だからこそ、この問題を親子で考えることが大切です」と話し、共に考え、向き合ってください。適度な距離で見守りながら待つことの重要性を強調していました。

## 『親子で考えるキャリア講座』発行

後悔しない就職のために、親は何ができるのか？

立命館大学では、父母がお子様の進路選択を支援する上で役立つ情報を冊子、およびウェブサイトで発信しています。採用の現況から専門家のアドバイスに加え、企業の人事担当者や就職を決めた学生とその父母の生の声などの情報が満載。親子で将来や人生について共に考え、希望通りの進路を掴む一助としてご活用ください。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/mng/fubo/career/index.html>



## 衣笠

# 学生生活講演会

教員から学生生活の近況を報告する秋の学生生活講演会。「学生の生の声をもっと聞きたい」という父母の声が多いことから、今年は「親が聞きたい子どもの本音」と題し、衣笠キャンパスでは文京洙学生部副部長（国際関係学部教授）と学生四名によるパネルディスカッションが行われました。

### 悩み、迷いながらも 課外と正課を両立

コーディネーターである文副部長の挨拶から、学生生活講演会が始まりました。「私も息子が二人いるので、今日皆さんと同じ親の一人として、学生のいろいろな声を聞ければ」と、講演会への期待を語りました。



まずは  
ディスカッ  
ションに参  
加する学生  
四名の自己  
紹介が行わ  
れました。

高校時代か  
ら現在に至  
るモチベー  
ションをグラ  
フ化した資料を使  
い、自  
らの学生生活を  
発表しました。



井上有斗さん（文学部三回生）は「ある日の食事」と題した写真で、普段の食生活を紹介。杉村美季さん（産業社会学部三回生）は、学園祭事務局執行部での課外と正課の両立に悩みつつ、充実した学生生活を送っていることを披露しました。また寺西正敏さん（政策学部三回生）は、団長を務める交響楽団で、組織運営の難しさや人とのつながりの大切さを学んだと語りました。江藤聡子さん（国際関係学部二回生）は、アルバイトや生活費の話を中心に、日常生活を説明しました。

### 干渉し過ぎず、放っておかず バランスが難しい

次に、文副部長の進行で行われたパネルディスカッションでは「YES」「NO」のパネルを使い、「親（子ども）から信頼されている方だと思おう」や、「今の子どもは恵まれていると思う」などの質問に父母と学生が回答。その答えを受けて、文副部長が、学生の考えや感想を順番に聞き出しました。「課外は遊びだと言われるが、一生懸命取り組んでいる」という学生の意見には「遊びに見えたとしても意味があることだと、理解してほしいという事ですね」などと、文副部長がまとめながらディスカッションは進みました。中には「頻



繁に連絡をするよう求められるが、温かく見守ってほしい」と、親が干渉し過ぎることを指摘する意見が出る一方、「面と向かって言えないが、勝てない存在と感じている」と、親の偉大さを語る学生も。「親は干渉し過ぎない、期待し過ぎない。かと言って放っておいてはいけない。そのバランスが大切ですね」と文副部長は締め括りました。



### 言葉にはしないが 親への感謝を再確認する

最後に、父母から学生への質問の時間が設けられました。「正課と課外、アルバイトをどのようにやりくりしているのか？」という問いや「彼氏、彼女はいる？」というざっくばらんな質問など、父母が気になる「学生事情」についての質問が投げかけられました。「言葉にしないけれど、心では感謝しているので安心してほしい」という学生の意見に「安心せざるを得ない、ということですね」と文副部長。「学生の生の声を聞くことができて参考になった」という感想も多数寄せられており、父母にとって充実した講演会となりました。

立命館大  
学だから  
こそ、で  
きること  
がたくさ  
んありま  
す」と述



## 立命館大学だからこそ 学びの選択肢が豊富にある

BKCでは種子田穰学生部長が司会進行を務め、学生のパネルディスカッションが行われました。壇上の学生たちが自信を持って発言するなど、活発な意見交換が繰り返され、会場では熱心に聞き入る父母の姿がみられました。

# BKC 学生生活講演会

種子田学生部長の司会進行で四名の学生が、日々の学生生活の様子や成長のための取り組み、学ぶ上での困難や喜びについてパネルディスカッションを行いました。

まず「立命館大学に満足をしているか」という問いかけに対して全員が「満足をしている」と回答。末永晋一郎さん（薬学部一回生）は「立命館大学には、チャレンジできる機会が数多く用意されています。たとえば経営に興味があればアントレプレナー養成講座を受講できるし、英語を学びたいれば交換留



## 日々の学生生活の中で 自分自身の成長を振り返る

続いて「大学生活を通して成長を促すために、具体的にどのようなことに取り組んでいるか?」という問いかけに対して、宮野友輔さん（情報理工学部四回生）は「現在、社会人のサッカーチームに参加しており、そこで地域の

中学生にサッカーを教える機会があります。最初はサッカーの技術を教えるようとしていたのですが、それよりも一人ひとり



「子どもたちの『考える力』が弱いことに気づき始めました。今では自分のことは自分で決めて行動に移せる力を養えるような指導に重点を置いていきます」と答えました。

## いつでも味方でいてくれる 揺ぎないサポートに感謝

また「学生生活で父母に支援してほしいことは何か?」という問いに、諸戸陽子さん（経営学部二回生）は「最初は下宿することを親に反対されましたが、自分ができる範囲内で生活費をやりくりすることを条件に許してもらいました。けれど、やりたいことを見つけてそれに集中すると、金銭的に余裕がなくなることもありました。そんな私をみて、『困ったときはいつでも連絡してね』と言って物心両面からサポートしてくれたことにとても感謝しています」と答えました。

その後、会場の父母から幾つか学

生に質問が投げかけられ、現状の学生生活を聞くにつれ、感心の声も出ていました。

最後に、父母へのメッセージとして冬野祥子さん（経済学部三回生）は「両親と離れてみて、見守ってくれていることをひしひしと感じています。また、私は常々両親しか本当のことを言ってくれる人はいないと考えています。友人ではちよつと言いつらいようなことでも、両親は批判を含めて正面からぶつかってきてくれます。今は離れているけれど、いつも感謝していると伝えたいです」と述べました。



学部別懇談会

# 法学部

時代のニーズに 대응する法学を実践するため  
学生自身がキャリア形成を重視した改革を行う

## 学部からの報告

父母教育後援会の中村悦子監事・兵庫県委員による事業中間報告から全体会が始まりました。次いで、吉田美喜夫法学部長が挨拶の壇上で、本年度からの教学改革に触れ、「今回は特にキャリア形成を重視した改革を行い、学生が自分の将来を見据えて着実に力を付けていく仕組みを用意しました。日頃の勉強の成果を基に議論を行い、勉強を深める『ゼミナル大会』が、約二十年ぶりに復活することは、今回の改革を学生が実践してくれていることの表れであり、心強く思っています」と報告。また「本年度の就職状況は極めて良好で、司法試験には西日本私大で一



位の五十九名が合格しました。法学部である以上、法律の専門職の分野はもちろん、それ以外の法学の教育についても力を入れていきたい」と、抱負を述べました。

学びについての詳細は、堀雅晴副学部長が紹介しました。「学部教育では、時代の社会的ニーズに応えたカリキュラムを選定しています。また、クラス制により、基礎学力を身につけるためのきめ細かいサポートを行っています。さら

に、より早い段階で自分の学びを将来の進路と結びつけられるよう、二回生には多彩な実習カリキュラムを用意しており、総合大学で学ぶメリットを生かし、しっかりと人生を見つめた進路就職活動をしてほしい」と語りました。

次に、竹濱修法学研究科長が大学院教育の現状を報告しました。「昨今、民間企業でも法律に関する知識を持った人材が求められています。そこで法学研究科では、法曹養成以外にも法律専門職を養成しています。大学院進学では専門知識を学部段階以上にレベルアップさせ、社会での活躍へとつながります。大学院進学を検討してもらいたい」と述べました。

## 学生の体験談

続いて三名の学生が来場し、就職活動体験を話しました。

中村丁司さん(四回生・国家公務員裁判所事務官Ⅱ種内定)は、「公務員試験は併願が基本。可能な限りの受験を勧めますが、とにかく長丁場の試験勉強を乗り越えるためには『公務員になるんだ』という強い意志が重要です」と話しました。大西真央さん(四回生・株式会社日本総合研究所内定)は「不採用が続く辛い時期に支えてくれたのは家族。温かい見守りや、潰れそうな時にそっと手を差し伸べてくれたことが励みになりました」と振り返りました。木村直人さん(修士課程二回生・ダイハ

ツ工業株式会社内定)は「大学院では、テキストを越えた実践的な学習から多くのことを学び、その経験を自分の『幅』として伝えられたことが、内定につながったと思います」と語りました。

## グループ別懇談会

全体会の後は、グループに分かれて懇談会が開かれました。就職・大学院進学についての懇談会には、全体会で就職活動の報告を行った中村丁司さんも参加。会場の父母からは、公務員試験や就職活動に関する質問が投げかけられました。中村さんの実体験に基づいたアドバイスにうなずく父母も多数見られ、活発な質疑応答・意見交換となりました。

### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 中村悦子 父母教育後援会監事
- ② 学部代表挨拶 吉田美喜夫 法学部長
- ③ 法学部教育の現状と課題について 堀雅晴 法学部副学部長
- ④ 大学院教育の現状について 竹濱修 法学研究科長
- ⑤ 就職内定者の体験談(学生生活と就職活動)  
学部生・院生の報告に対する質疑・応答  
中村丁司さん(4回生・裁判所事務官Ⅱ種内定)  
大西真央さん(4回生・株式会社日本総合研究所内定)  
木村直人さん(修士課程2回生・ダイハツ工業株式会社内定)

#### II. グループ別懇談会

- ◎成績・学習について ◎就職・大学院進学について



# 産業社会学部

## 小集団教育を強化し 学生の個性を輝かせる教育をめざす

### 学部からの報告

父母教育後援会の馬場慶子常任委員・京都府委員による事業中間報告から全体会が始まりました。國廣敏文産業社会学部長



「昨年、本学部は五専攻制に改編。現在学生数は、大学院生を含めて四千三百名に上ります」と挨拶しました。また「正課と課外を結びつけた多様な学びを重視しています。フィールドワークなど実践的なプログラムや学術横断的な学びが、学生自身の個性や関心を花開かせることにつながっています」と述べ、多様な個性を育てる学部として、教学改革に努める決意を明らかにしました。

有賀郁敏副学部長が、産業社会学部の学びについて、さらに詳しい説明を加えました。有賀副学部長は「学生、教員ともに、知識を身に付けるだけでなく『知を生産する』役割を担っています。

### 学生の体験談

そのためには、社会の中から課題を見つけ、その解決方法を編み出す能力が必要です。その力をより高く育むために、来年度以降『小集団学習』を強化する予定です」と述べました。また「課外活動、アルバイト、ボランティアなどに、あらゆる機会が学生を育てます。父母の皆様もぜひ、学生のこうした活動を応援してあげてください」と結びました。

進路を決めた五名が、自身の進路を選ぶまでの道程を語りました。

朝田博之さん(四回生・大阪府小学校教員内定)は、入学当初から小学校教員を志望していたことや、教育専門の学部では得られない多様な学びが力になったことを振り返り「小学校でのボランティアや学校インターンシップといったプログラムにも積極的に参加しました。教員になるために必要なことは何かを



考え、目標を定めて行動したことが、結果につながりました」と語りました。また、山本悦史さん(四回生・本学社会学研究科博士課程前期課程進学予定)は、

スポーツ社会学について専門性を深めるべく、大学院へ進学する道を選びました。「勉強を続けるには金銭的な不安もありました。立命館大学は奨学金制度が充実しており、大きな助けになりました」と話しました。

学生生活の思い出を尋ねられた山本奈央さん(四回生・株式会社NTTコムウェア内定)は「産業社会学部ゼミナール大会」に出場した体験談を披露。「リーダーとなってグループをまとめ、研究、資料作成、発表までをやり遂げました。その過程で皆と力を合わせる大切さを学び、コミュニケーション能力を育んだことが、就職活動でも役立ちました」と述べました。栗田佳典さん(四回生・NPO法人テラ・ルネッサンス内定)は、三回生の時にインターンシップを経験。「アフリカのルワンダ地方で福祉活動に従事しましたが、かねてから関心のあった国際支援の現場



を目的にしたりしたことが、進路を決める契機になりました」と語りました。大河内春香さん(四回生・株式会社大広内定)は「就職活動中は、面接や試験に失敗することもありましたが、落ち込んだ時、両親が普段通りに接してくれたのがありがたかった」と思い返しました。

これらを受けて、父母から「就職活動時期が早まっていることに驚いた」といった声上がるなど、会場では活発に意見が交わされました。

### グループ別懇談会

その後は「成績・学習」「就職・大学院進学」「個別相談」のテーマに分かれた懇談会が行われました。

#### プログラム

##### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 馬場慶子 父母教育後援会常任委員
- ② 学部代表挨拶 國廣敏文 産業社会学部長
- ③ 産業社会学部の学びについて 有賀郁敏 産業社会学部副学部長
- ④ 学生生活・就職活動について
  - 朝田博之さん(四回生・大阪府小学校教員内定)
  - 栗田佳典さん(四回生・NPO法人テラ・ルネッサンス内定)
  - 山本悦史さん(四回生・本学社会学研究科博士課程前期課程進学予定)
  - 大河内春香さん(四回生・株式会社大広内定)
  - 山本奈央さん(四回生・株式会社NTTコムウェア内定)

##### II. グループ別懇談会

◎成績・学習について ◎就職・大学院進学について ◎個別相談について

学部別懇談会

# 国際関係学部

幅広い学びの領域と多彩なチャンスから  
グローバルに活躍する人材を育成

## 学部からの報告

父母教育後援会の濱家重信常任委員・奈良県委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。次いで高橋伸彰国際関係学部長が「二十周年を迎えた国際関係学部は、これまでに五千名を超える卒業生・修了生を輩出しています。多くのOB・OGが世界各地でグローバルリーダーとして活躍し、そして、そんな先輩をめざして学



生たちも頑張っています」と報告しました。さらに「この数年で十名近くの新しい教員を迎え、学生と教員の比率がさらに恵まれたものになりました」と近況を語りました。

次に森岡真史副学部長が学生生活、および学部教育の現状について報告しました。一つ目は、国際関係学部の特徴である「学びの幅の広さ」についてで、一回生では法律、政治、経済、文化、社会など、人間社会すべての領域から国際関係学にアプローチできるカリキュラムを組んでいる点について説明がありました。そして「用意された領域の幅が広過ぎて、興味のある分野が定まらない学生もいますが、広い関心の中から最終的に自分が専門的に学ぶ問題を見つければ良いと考えて

います」と話しました。二つ目は、立命館大学が用意する多種多様な留学プログラムについて「チャレンジの機会が多いこと」を特徴として挙げました。三つ目は「少人数教育、キャリア教育」についてです。「学生と教員が日常的にコミュニケーションできる機会を設け、個別面談を行うなど、学生一人ひとりを丁寧にフォローしています」と報告しました。また「大学で学んだ力」をどう生かしていくかを伝える「キャリア教育」を重視している点も伝えました。そして「もう一段高いところを目指して私たちの教育を作り上げたい。国際関係学部の現状や今後改革していくべき方向性について、皆様のご意見をお聞かせください」と語りました。

続いて石原直紀副学部長が「就職を取り巻く社会環境」について、立命館大学の就職活動支援の内容を報告しました。学生が実際に就職活動を経験する上で、精神状態も含めてどのような状況にあるのか、大学や父母がどのようにサポートするべきなのかについて説明しました。最後は「可愛い子には旅をさせよ」という言葉とともに留学や就職をテーマとするグループ別懇談会へと引き継がれました。

## グループ別懇談会

「留学・就職懇談会」では、安田杏映さん(四回生)が、留学準備や現地での生活について発表しました。特に四回

生の夏に帰国し、そこから始めた就職活動中の不安や葛藤、最終的に立命館大学のキャリアセンターを活用して内定を得た話に、熱心に聞き入る父母の姿が目立ちました。また「インターンシップ・就職懇談会」では、八木田貴史さん(三回生)が、国際交流基金のインターンシップに参加し、学んだことをアウトプットする技術を実体験で身に付けたことや、視野が広がったことについて報告しました。



## プログラム

### I. 全体会

- ①2008年度事業中間報告 濱家重信 父母教育後援会常任委員
- ②学部代表挨拶 高橋伸彰 国際関係学部長
- ③学生生活および学部教育の現状について 森岡真史 国際関係学部副学部長  
石原直紀 国際関係学部副学部長
- ④進路・就職活動報告

### II. グループ別懇談会

- ◎「留学・就職懇談会」  
浅野拓斗さん(3回生)  
安田杏映さん(4回生)
- ◎「インターンシップ・就職懇談会」  
八木田貴史さん(3回生)  
岡部紗代子さん(4回生)

# 政策科学部

小集団クラスで身に付ける「思考力」が就職活動をはじめさまざまな面で生かされる

## 学部からの報告

父母教育後援会の小野善三常任委員・京都府委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。見上崇洋政策科学部長は挨拶の中で、最近の就職活動の面接について触れ「自分が見たものを、いかに実感として伝えるかや、問題に関わる姿勢が重要視されています。政策科学部で学んでいる学生たちは、そうした能力がしっかり身に付いています」と述べました。また、文部科学省の補助金制度が学部・大学院ともに適用されたことも報告し「大学での教育内容が対外的にも評価されています」と語りました。

続いて、服部利幸副学部長が学部教育について説明しました。ディベートの



授業をはじめ、小集団科目を中心としたカリキュラムがあること、また学生が学内外を問わず研究発表の場に積極的に参加し、入賞していることについて報告。「地域貢献と学生の学びをうまく融合させる試みとしてフィールドワークを重視しています。学外に出て調査するなど、学生の学びのフィールドは学内に留まりません」と話しました。さらに「学外で初めて大人に触れ、多くの

ことを聞く中で、自らの足りない部分に気付きます。これを外部の講師のセミナーやヘルプデスクによってカバーするといった、大学の外側にも学生を支える仕組みを作ったことが、文部科学省にも評価されました」と述べ「大学は学びのチャンスを多数用意しているので、積極的に参加して自分のものにしてください」と締めくくりました。

最後は大塚陽子学生主事が学生生活について「他学部に比べて小規模な学部ゆえに、よりきめ細かい学生支援が実現しています」と報告しました。

## 学生の体験談

続いて学生二名による政策科学部での学びや就職活動についての紹介が行われました。はじめに一回生の授業をサポートする組織「オリタート団」で活躍する松山誘学さん(三回生)が、その活動内容を中心に、学部での学びと課外自主活動について紹介しました。

次に有村朱加さん(四回生)が、自身の就職活動について披露。

「立案から企画、運営という一連の流れを学部で身に付けたこ



とが、就職活動でも大変有効でした」と話しました。また、就職活動の実体験や、両親がどのように関わってくれたかについて、その時々心の動きを説明しながら、具体的に紹介。熱心に聞き入る父母の姿が多数見られました。

## 回生別懇談会

回生別に分かれての懇談会では、全体会の内容をさらに詳しく説明してほしいという父母からの質問を受け付けました。各会場ではそれぞれの回生ならではの疑問点や、学生生活の状況に関する質問が多数飛び出し、学生生活について、より具体的に父母に伝えられる充実したひとときとなりました。

### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 小野善三 父母教育後援会常任委員
- ② 学部代表挨拶 見上崇洋 政策科学部長
- ③ 学部教育について 服部利幸 政策科学部副学部長
- ④ 学生生活について 大塚陽子 学生主事
- ⑤ 学生の学びについて 松山誘学さん(3回生)
- ⑥ 就職活動について 有村朱加さん(4回生)

#### II. 回生別懇談会

- ◎1回生 ◎2回生 ◎3回生以上

学部別懇談会

# 文学部

学際的な新プログラムと伝統的な専攻を融合し、  
多様な学びを実現する

## 学部からの報告

父母教育後援会の大矢須美子  
常任委員・京都府委員による  
事業中間報告から  
全体会が始まりました。次いで



木村一信文学部長が挨拶し、「伝統的な十専攻に加え、三つの学際的なプログラムを擁し、総合的、国際的な学部を目指しています」という文学部の現状を説明。「昨今はこれまで以上に、大学が『勉強し、力を付ける場所』として機能することが社会から求められています。こうした状況を踏まえ、『学習者中心の学び』を実践しています。その結果、近年、文学部の就職率はますます伸びています」と語りました。

## アカデミックミニ講義

続く「京都で学ぶ歴史―伏見人形の不思議―」と題したアカデミックミニ講義では、木立雅朗教授が授業で実施しているフィールドワークを紹介。学

生の普段の学びの様子が分かる講義となりました。

木立教授は、京都・伏見地域で作られる郷土玩具「伏見人形」に着目し、伏見人形を製造している店や京焼、清水焼など京都の高級焼き物の窯元を学生と訪ねた様子をスライドで示しながら、伏見人形の歴史を説明。「伏見人形が素焼きの玩具として全国的に知られるようになった背景には、平安時代から発達した鑄造技術や京焼などの京都独自の文化がありました」と解説しました。さらに伏見人形作りは、いわゆる「ベ



ンチャー」だったという見解を示し「伝統とは歴史を守るのではなく、新しい歴史を作ること」という持論を展開しました。

最後に木立教授は「フィールドワークなど多様な学びを通して、学生には論理的思考力を磨いてほしいものです」と結びました。

## 学生からのメッセージ

来年度に教員や民間企業の社員となる三名の学生が、大学生生活や就職活動について語りました。山本岳さん(四回生・愛知県教員内定)は、文学部独自のカリキュラム「学校教育臨床研修プログラム」を履修し、教員試験に合格しました。「学校インターンシップを経験し、情熱を持つ指導する現場の先生の姿を見たことで教師への志を新たにしました」と語りました。中西杏里さん(四回生・本田技研工業株式会社内定)は、約八カ月のカナダ留学を経験。「カナダでの生活を通して語学力向上はもとより、人間的に成長したことが収穫。自分にとっての『留学の意味』を明確にすることが成功のカギです」とアドバイスしました。

また福本亘さん(四回生・伊藤忠商事株式会社内定)は就職活動について語り「就職活動では、留学や勉強の最中、困難をどう乗り越えたかについてそのプロセスを伝えたことが評価されました」と述べました。

## 専攻別懇談会

専攻に分かれての懇談会では、闊達な議論が展開されました。中でも、日本史学専攻懇談会では、現在の厳しい経済や就職状況を心配する父母の声が聞かれました。それに対して「四年間を通じてきめ細かく指導し、卒業論文という成果に結びつけます。論文を仕上げる過程で、社会から求められる能力が育まれ、公務員や教員、一般企業といった多様な方面での高い就職率を維持しています」と学部担当者が答えていました。



### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 大矢須美子 父母教育後援会常任委員
- ② 学部長挨拶・大学近況報告 木村一信 文学部長
- ③ アカデミック講義  
「京都で学ぶ歴史―伏見人形の不思議―」  
講師：木立雅朗 文学部教授(日本史学専攻)
- ④ 学生からのメッセージ  
山本 岳さん(西洋史学専攻4回生・愛知県教員内定)  
中西杏里さん(国際プログラム4回生・本田技研工業株式会社内定)  
福本 亘さん(中国文学専攻4回生・伊藤忠商事株式会社内定)

#### II. 専攻別懇談会

- ◎ 専攻ごとに分かれて実施

# 映像学部

勉強を通じて知識を増やすだけでなく、  
自分が生きる道をプロデュースすることが大切

## 学部からの報告

父母教育後援会の松野真弓埼玉県委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。続いて大森康宏映像学部長が開設からの二年間を振り返り

「教員は専門科目を教えるだけでなく、その中から学生自身が自分に合う選択ができるよう、多様性に重きを置いて講義を行っています」と語りました。そして「三、四回生になると、自身に課せられた使命をどう選び、自分の生きていく道をどのようにプロデュースするのかを考える時期に入ってきます。就職も選択肢の一つですが、その前に学生たちが『自分はどうか生きていくか』をしっかりと考え、多くの教員から学ぶことが重要です」と述べ



「学生が新しい人生を切り開くために知識はもろろん、外の世界との繋がりを持たせるのが我々の務めです。父母の皆様においては、彼らが人生設計をしていく中で、精神的な部分のサポートをお願いしたい」と語りました。

学びについての詳細は、富田美香副学部長が紹介。来年度、三回生に対して開講する演習(ゼミ)について触れ、今後の演習登録スケジュールと、「アート」「テクノロジー」「ビジネス」それぞれの分野において、従来の学部にはない多様な演習が用意されていることを説明しました。「学生自身が将来設計を考えながら、どの分野でどういった作品・論文を生み出し、四年間の学部教育を修了させるのか、ということを考え始めています。学生からも就職への不安の声が聞こえるが、教員側は学生が望む分野に関する力量と、総合的な視野の広さを身に付けてもらおう観点から、学生としっかりと対話していきたい」と抱負を述べました。

## 学生の体験談

次に、映像学部の学生生活について、

学生三名が講演を行いました。岡田翔さん

(一回生)、

吉田桜さん

(二回生)は、

プロデュー

ス基礎演習

の一環で行

われた、

オープン

キャンパス

の企画を説

明。「企画の運営には、スタッフ同士の

意思疎通と信頼関係が重要です。この

経験を通して身に付けたコミュニケーション

力立つと思います」と話しました。

また、岩本拓磨さん(二回生)は、山

田洋次監督の「山田塾」や、映画「鴨川

ホルモー」の撮影現場に立ち会った経

験を紹介。「プロの現場をリアルに体験

でき、勉強になりました」と語りました。

学生の講演の後、大島登志一副学部長と富田副学部長の案内で、情報演習

室やMA室など、実際に学生が使用する

施設を見学しました。

## グループ別懇談会

休憩後の懇談会では、参加した父母全員が自己紹介と今回の父母教育懇談会の感想を述べた後、意見交換が行わ



れました。教員から、学生の学校での様子の紹介や、就職に関して学校のサポート体制をはじめ、学生自身が今のうちにやっておくべきことや就職への心構え等のアドバイスもあり、メモをとる父母も多数見られました。



## プログラム

### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 松野真弓 父母教育後援会埼玉県委員
- ② 学部代表挨拶 大森康宏 映像学部学部長
- ③ 学部教学の説明 富田美香 映像学部副学部長
- ④ 学生活動紹介 吉田 桜さん(1回生)  
岡田 翔さん(1回生)  
岩本拓磨さん(2回生)

### ⑤ 充光館見学

映像編集系の教室(情報演習室2、音響編集実習室、MA室)  
インタラクティブ系の教室(情報演習室1、インタラクティブ・ラボ)

### II. 懇談会

◎参加した父母全員の自己紹介や、意見交換を実施

学部別懇談会

# 経済学部

## 親子の関係づくりが就職活動の決め手 日常的なコミュニケーションを

### 学部からの報告

父母教育後援会の小山美知子常任委員・兵庫県委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。平田純一経済学部長より「大学教育とは、父母に守られた環境から自分ひとりで社会生活を送るまでの中間ステップ。親としてうまく距離を取りながら接してください」と述べた後、就職活動を前提とした大学生活について「本学経済学部では百二十四単位以上を取得して卒業要件を満たすことになるが、就職活動を円滑に進めるには一回生で三十〜四十単位、二回生で六十五〜八十単位、三回生で最低百単位の取得が望ましい」とアドバイスがありました。また「就職活動について親子が理解を深め



るには、就職活動を開始する前の三回生の夏休みがいい機会です。この間に会話を重ねてください。また地元企業での就職を希望するなら情報収集が必須なので、大学のフォーローに加え、父母の皆様も協力をお願いします」と述べました。

### 学生の就職活動体験談

柴田桂佑さん（一回生）の司会で、二人の学生が就職活動の体験を話しました。



地元の広島市内に定した高原勝也さん（四回生）は、就職活動の成功の秘訣と就職活動を通して深まった両親との絆について話しました。「自分がどんな道に進みたいのか」から始まり、就職活動のスケジュール管理や面接対策、エントリーシートの書き方まで、大学の方には随分お世話になりました。そして、金銭面や精神面で支えてくれたのは何よりも両親。就職活動を通して、父がこれまでどんな仕事をしてきたのか理解するようになり、最も身近な社

会人の先輩としてお酒を酌み交わす仲に。両親のおかげで就職が成功したと思っています。大切な思い出となりました」と話しました。

森本陽子さん（四回生・大和証券株式会社内定）は「十一月から始めたエントリーは百五十社近くに上り、十二月から各企業の説明会を受け、エントリーシートは約五十社に送りました」と、具体的な就職活動内容を紹介。また「就職活動に最も必要なのは自己分析です。自分がどういう人間なのかという自己アピール、学生時代に頑張ったこと、その企業に就職して具体的に何をしたいか、つまり過去、現在、未来の一貫性がないと駄目なので、しっかり自己分析をしなければなりません。私は、誰よりも自分を知っている両親によく相談しました。面接官はたいてい五十歳前後の方が多く、親の世代から話を聞くことも大事だと思います」と、就職活動の秘訣を話しました。

キャリアセンターより、就職活動をするための準備、大学の就職サポートシステム、二〇〇八年度の就職状況について説明が行われました。その後、父母からの活発な質疑応答があるなど、



### グループ別懇談会

就職活動についての関心を示していました。



#### プログラム

##### I. 全体会

- ①2008年度事業中間報告 小山美知子 父母教育後援会常任委員
- ②学部代表挨拶 平田純一 経済学部長
- ③就職活動等体験談  
司会：柴田桂佑さん(1回生・キャリアデザインプロジェクト所属)  
高原勝也さん(4回生・広島市内定)  
森本陽子さん(4回生・大和証券株式会社内定)

##### II. グループ別懇談会

- ◎進路・就職について
- ◎履修・成績について

# 経営学部

「教育の質保証」を高めるため  
国際教育の場として改革を推進

## 学部からの報告



二百名以上の学生が海外で勉強する機会を得るなど、経営学部ではグローバルな教育の現場が整いつつあります」と述べました。

続いて、黒木正樹副学部長が経営学部教育の現状と課題について報告。「国際的視野を培う上で有効な海外留学や、めざすべきキャリアへの道筋が見えてくるインターンシップに、積極的に挑戦してほしい。そして、一人ひとりの個性を伸ばす教員との出会いを大切にしたいものです」と、学生に対する希望を語りました。

次いで、キャリアセンター職員から進路・就職の取組みについての説明が行われ「企業は何よりも総合的な人間力を評価するため、クラブやゼミなどを含めた多方面での経験が大切です」



といったアドバイスがありました。

次に、服部泰彦副学部長が進路の一つの選択肢である大学院進学について紹介。「四万字以上の修士論文のまとめを通して、より深い専門性に加え、物事に対する理論性が深まります。さらに、協調性やリーダーシップなど、社会人として必要な能力を伸ばすこともできます」と述べました。続いて、大学院に在学中である望月直典さん(博士課程前期課程2回生)が大学院生活について語り、経験値も国籍もそれぞれ違う環境で学ぶ魅力について話しました。

## 学生の体験談

まずは、三浦正行学生主事が、豊かなキャンパスライフを送っている学生たちの現状について述べた後、就職内定を得た二人の学生が登場し、就職活動体験を話しました。

長瀬建太朗さん(四回生・株式会社リクルート内定)は「十月からエントリーシートを書くなど、早めに就職活動をスタートしました。これだけ多くの業界や人と出会えるのは就職活動だけなので、ぜひ早いうちから準備をしてほしい。父母の皆様には子どもの主体性を大切に見守ってほしいと思います」と発表しました。

続いて、栗波ちひろさん(四回生・株式会社アサツーデイ・ケイ内定)は「最初から業界を絞らず、興味のある企業はどんどん受けてほしい。就職活動

では、内定をゴールと考えるのではなく、就職した会社でどうしたいのかを自問自答することが大切です」と話しました。



## グループ別懇談会

キャリアセンターより「自己分析と業界研究が重要」といった就職活動のノウハウについて話があった後、父母からの具体的な相談が寄せられました。

### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 井上寿美 父母教育後援会常任委員
- ② 学部代表挨拶 齋藤雅通 経営学部長
- ③ 学部教育の現状と課題について 黒木正樹 経営学部副学部長
- ④ 進路・就職の取組みについて 山本じゅん(キャリアオフィスBKC)
- ⑤ 大学院進学について 服部泰彦 経営学部副学部長  
望月直典さん(博士課程前期課程2回生・経営学研究科)
- ⑥ 学生生活・就職活動体験
  - ◎ 学生生活の状況について 三浦正行 経営学部学生主事
  - ◎ 学部生就職内定者 長瀬建太朗さん(4回生・株式会社リクルート内定)  
栗波ちひろさん(4回生・株式会社アサツーデイ・ケイ内定)

#### II. グループ別懇談会

- ◎ 1回生・2回生
- ◎ 3回生・4回生

学部別懇談会

# 理工学部

全国屈指の規模と歴史を誇る学部において  
パーソナルな学力指導を強化する

## 学部からの報告

父母教育後援会  
の土野池  
正義副会  
長・滋賀  
県委員に  
よる事業  
中間報告  
から、全



体が始まりました。続いて中田俊隆副学部長が挨拶に登壇。理工学部は今年で創設七十周年を迎える節目の年であり、私立大学の中でも有数の伝統と歴史を誇る学部であることに触れた後、本年度より新設された生命科学部・薬学部を含めた理工系四学部を統括する「総合理工学院」の新体制が報告されました。

また立命館大学の建学の精神「自由と清新」に触れ、「新しい道を切り開くことも大いに大切ですが、ただ新しいものを取り入れるだけでは不十分です。理工系の学生には確かな学び、確かな学力が求められています」と語りまし

た。そのためには教員は基本に立ち返り、学生を指導するカリキュラムの見直しや、新しいものを取り入れる努力を惜しまないと明言。「現在、理工系四学部は、近畿はもちろん、西日本でも一、二を争う規模と質を誇るまでに成長しました。とはいえ、単に大きくなれば良いというものではありません。学生を中心とした教育で基礎力を身に付けた人材を、社会に送り出したいと考えています」と述べました。

## 学生の体験談

学生生活で得た学びについて、三人の学生が壇上で報告しました。

田中亜実さん(4回生)は、学習面や人間的な面での成長について語りました。「専門の授業では、半導体や情報処理など



の基本から応用分野の知識まで、幅広く身に付けることができました。またマイクロパワーシステム研究室に配属され、電池なしで光るヨーヨーや傘の開発など、バッテリーレスや低消費電力システムの研究を行いました。毎日のように顔を合わせる研究室のメンバーとも親しい間柄になりました」と話しました。

里見知昭さん(博士課程後期課程2回生)は、大学院に進学した理由について「研究が面白い」「人とのつながりが広がる」「大学院生は就職に有利」という三つの利点を挙げました。「修士課程では講義中心の受身的な勉強内容でしたが、博士課程では研究中心の自主的



な学習になり、専門分野への理解をますます深めることができると思います。また、学会やセミナーなどの参加を通して多くの人と会う機会が増え、交流の輪が広がりました。専門知識の習得に限らず、多くの人と接しながら研究活動ができ、自分自身の可能性も高めることができました」と語りました。

## 学科別懇談会

全体会の後は、学科ごとに分かれて懇談会が行われ、就職委員から就職支援のプログラムや産学提携に根ざした独自の取り組みが報告されました。その後の質疑応答でも、父母との活発な意見交換がなされました。

### プログラム

#### I. 全体会

- ①2008年度事業中間報告 土野池正義 父母教育後援会副会長
- ②学部代表挨拶 中田俊隆 理工学部副学部長
- ③在学生による講演  
田中亜実さん(4回生・電子情報デザイン学科)  
大嶺和大さん(4回生・数理科学科)  
里見知昭さん(理工学研究科博士課程後期課程2回生)

#### II. 学科別懇談会

- ◎学科別に13会場に分かれて実施
- ・学科長挨拶
  - ・学科の取り組み報告
  - ・質疑応答



# 情報理工学部

情報技術のスペシャリストとして  
日本の柱にとらわれない国際派をめざす

## 学部からの報告

父母教育後援会の今西清裕常任委員・京都府委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。続いて大久保英嗣情報理工学部長が現在の就職状況や国際化をめざす情報理工学部のプログラムについて報告しました。情報理工学度は、学部では九〇%近く、大学院ではほぼ毎年一〇〇%近くと、立命館大学内の全学部において現在のトップの就職内定率を誇ります。「これは、アメリカに端を発した昨今の不景気の最中でさえ、IT関連企業では人材が不足していることの証でもありません。国内でIT関連企業に従事する人は六十〜七十万人といわれています。対して日本の情報系大学の新卒者は毎



年二万人程度で、少ない数を企業が奪い合っているのが現状です。情報系大学の受験生は相対的に減少傾向にありますが、実は現在も多くの人材が求められているのです」と述べました。

また、国際的なプログラムについても触れ「オーストラリア、アメリカ、インドでの海外IT研修を積極的に実施しており、学生の皆さんにはぜひ参加してほしい。体験を通して学びへのモチベーションも上がることでしょう」と語りました。さらに情報理工学部では約七十名の留学生を受け入れていることを報告。「将来的にはもっと増やす予定です。国内の学生も日本の殻に閉じこもらず、国際的な感覚を身に付けられるようになってほしい」と、期待を示しました。

## 学生の体験談

学生生活や就職活動についての報告を、三人の学生が壇上で行いました。

川出恵子さん(四回生・トヨタ自動車株式会社内定)は、インターンシップを通して直接社内の様子に触れたことや愛知県出身であり、地元企業で働きたいという意思が強かったことなど

を志望動機に挙げました。「就職活動中、困ったことが生じると、キャリアオフェイスに行きました。キャリアオフェイスでは学生一人ひとりに対して個別に相談に乗ってもらえるので、ぜひ活用をお勧めします。またさまざまな企業に就職したOB・OGがキャンパスを訪れ、交流会を開いてくれるので、それにも積極的に参加しました」と話しました。

伊三野直志さん(理工学研究科一回生)は大学院に進んだ理由について「学部で得た知識だけで社会に出て通用するかが不安でした。より高い専門知識のほか、研究や発表などを通して問題解決能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高めたい」と思い、志望しました」と話しました。また「博士課程はさらに就職に有利」とし「職業選択の幅が広がられると思います。情報系の分野でいえば、スタッフ職、営業職、SE職、開発職、研究職などが挙げられます。開発職や研究職に就きたいなら、修士課程では難しい場合もあります」と述べました。



## 学科別懇談会

学科長より各学科の教育内容や研究に関する紹介があった後、就職委員より

進路指導のサポートシステムや本年度の内定先が詳細に報告され、会場に集まった父母は熱心に耳を傾けていました。



### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 今西清裕 父母教育後援会常任委員
- ② 学部代表挨拶 大久保英嗣 情報理工学部長
- ③ 学生生活について
  - ◎ 学部の学びについて 吉村宗浩さん(4回生・メディア情報学科)
  - ◎ 就職活動について 川出恵子さん(4回生・知能情報学科)
  - ◎ 大学院の学びについて 伊三野直志さん(大学院理工学研究科1回生)

#### II. 学科別懇談会

- ◎ 学科別に6会場に分かれて実施
- ・ 学科長挨拶
- ・ 進路報告

学部別懇談会

# 生命科学部・薬学部

「二十一世紀はライフサイエンスの世紀」の考えのもと  
新たな生命科学の創成をめざす

## 学部からの報告

父母教育後援会の桑原淳子監事・滋賀県委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。谷口吉弘生命科学部長と北泰行薬学部長は挨拶で「どの講義でも最前列から席が埋まる学生たちの熱心さに驚きます。指導の甲斐があると同時に教育に対する責任を強く感じつつ、全力を挙げてサポートしていきたい」と述べました。さらに「三百八十名の定員に対し、一万一千名の志願者がありました。驚異の難関を突破しただけのことはあります」と話しました。また生命科学部との融合はもちろん、理工学部、情報理工学部と連携した薬学部においては「私立総



合大学の特徴ある薬学部の設立に、多くの他大学が注目しています。学生の質の高さに期待しつつ、高度な薬剤師のエキスパートを育て、社会に貢献できる人材を輩出することが私たちの務めです」と語りました。

引き続き、久保幹生命科学部副学部長が、両学部の「学びと進路」について説明しました。「二十一世紀の社会が持続的に発展を遂げていくために必要な医療や健康、環境、食糧などの分野において、ライフサイエンスの果たす役割が大きく期待される中、専門教育に加え、基礎教育や倫理的教育、さらには欧米では必須科目となっている英語力の習得に力を入れていきたい」と今後の方針を述べました。臨床医経験の

ある医師や基礎医学研究者を招聘するなど、充実の教員体制も両学部の特長の一つです。滋賀医科大学、関西医科大学とも連携しており、研究についても注力しています。また、低回生時からキャリアサポートの充実を図っている状況を説明しました。

## 学生の体験談

次に、在学生の体験談が語られ、小学生の頃から薬に興味や疑問を抱いていたという田島由里絵さん（薬学部一回生）は「日々、高度な勉強をしていると実感しています。英語などは課題が多くて大変ですが、理系にこそ英語が大事だと思うので頑張れます。アルバイトも含めて、有意義なキャンパスライフを楽しんでいます」と話しました。また、小川啓史郎さん（理工学研究



科博士課程前期課程二回生・日本たばこ産業株式会社内定）は、進路・就職について実体験を交えて語りました。「学部の三回生まではアルバイトやサークル活動に熱心でしたが、父親から『大人として責任を持つ』と言われた成人式を境に、進路や将来について真面目に考えるようになりました。自分自身を見つめ直し、研究で身につけた自己表現方法と論理的思考、プレゼンテーション能力が評価され、就職でも有利に働いたと実感しています」と、就職活動を振り返りました。

## 個別相談会

全体会終了後、希望者を対象に個別相談会の時間が設けられました。

### プログラム

#### I. 全体会

- ① 2008年度事業中間報告 桑原淳子 父母教育後援会監事
- ② 学部代表挨拶 谷口吉弘 生命科学部長  
北泰行 薬学部長
- ③ 生命科学部・薬学部の学びと進路 久保幹 生命科学部副学部長
- ④ 学生体験談
  - ◎ 学生生活について 田島由里絵さん（薬学部・1回生）
  - ◎ 進路・就職について 小川啓史郎さん（理工学研究科博士課程前期課程2回生・日本たばこ産業株式会社内定）

#### II. 個別相談会（希望者のみ）

# RITSUMEX '08 立命館オープンキャンパス in TOKYO

## 東京で立命館の学びの魅力PR 父母限定・京都文化講座も開催



立命館大学と立命館アジア太平洋大学、立命館の附属校を東京で体感できる「RITSUMEX'08 立命館オープンキャンパス in TOKYO」が秋分の日(9月23日(火))、東京ドームプリズムホールで開催されました。晴天の下、立命館の受験を考えている高校生や保護者、さらに立命館の在学生の父母や校友が足を運び、その数は延べ5千人を超えました。この日は、元プロ野球選手の古田敦也氏ら立命館を卒業し、各分野で活躍する著名人や学生、現役教授が出演したトークセッションのほか、在学生父母限定の京都文化講座「源氏物語 一伝承と浪漫の旅」、保護者対象講演会や入試説明会、さらに立命館の「学び」にふれる模擬授業、立命館の校友や学生が高校生と語り合う企画など、立命館の魅力を存分にPRし、会場は大盛況となりました。



「RITSUMEX“じぶん”デザイン研究所。」では、学生生活や将来の夢について、現役学生と卒業生が高校生たちと語り合いました。



会場では、おそろいの「R」の文字入りTシャツを着たスタッフたちが温かな笑顔で来場者を迎えていました。



校友で元プロ野球選手の古田敦也氏とタレントの眞鍋かをり氏が出演した「めざせ! 世界水準の大学」。留学生とともに国際色豊かな話題で盛り上がりました。

### 京都文化講座「源氏物語 一伝承と浪漫の旅」(在学生父母限定講座)

#### 知られざる逸話に目撃させ 父母限定『源氏物語』講座

今年、誕生から千年を迎えた源氏物語をテーマにした、在学生父母限定の京都文化講座「源氏物語—伝承と浪漫の旅—」には父母45名が参加しました。中西健治立命館大学文学部教授が講師を務め、源氏物語の魅力や誕生秘話のほか、紫式部の創作力の特徴や最後の舞台を宇治に移した経緯など、あまり知られていないエピソードにもふれ、父母の方々は目を輝かせて聞き入っていました。



参加者の中には、講座の2ヶ月後の11月に実施した「アカデミック京都ウォッチング 中西健治先生と『源氏物語—伝承と浪漫の旅—』を往く」(23ページに関連記事)に参加した父母もいました。このウォッチングでは石山寺や宇治を巡る企画になっていることもあって、中西教授は「宇治の舞台は特に魅力で、近代小説を凌駕するおもしろさがあります」と強調し「ぜひ、宇治へ足を運び、千年の都である京都の様々な教育の香りを感じてください」と締めくくりました。

#### 情報理工学部 2回生 田辺さん ご夫妻

今まで詳しく知らなかった源氏物語ですが、先生の巧みなお話で興味がわきました。秋の中西教授の「京都ウォッチング」に参加するので、それまでに物語を読もうと思っています。



#### 法学部 1回生 安孫子さん ご夫妻

息子が京都で学び始めたのを機に、源氏物語に関心を持ちました。紫式部と清少納言との比較など、ここに来なければ聞けない話が盛りだくさんで楽しかったです。



### 全プログラム紹介

時間	Aブロック			Bブロック			Cブロック	屋外
	会場1	会場2	会場3	会場1	会場2	会場3		
11:30								
12:30	STUDENT STAGE						個別相談コーナー(各学部・入試相談・附属校) / 理系学部紹介コーナー(パネル展示) / 資料配付コーナー	世界の学生と大学生活を語るコーナー / 立命館紹介映像コーナー / Rグッズ販売コーナー / エコ抽選会場
13:00	『めざせ! 世界水準の大学』 ~「国際感覚の磨き方」 教えます~	入試説明会 (文系)	入試説明会 (理系)	京都文化講座				
13:30								
14:00	グローバル×エコ×サイエンスフォーラム ~地球のために、未来のために、できること~	模擬授業 (文学部)	保護者対象講演会	立命館アジア太平洋大学 紹介・入試説明会				
14:30								
15:00		立命館英語対策講座 (文法編)	立命館数学対策講座	模擬授業 (立命館アジア太平洋大学)				
15:30								
16:00	教育トークセッション 本当に力を伸ばす教育とは ~立命館のめざすもの~	立命館英語対策講座 (長文読解編)	模擬授業 (生命科学部)	RITSUMEX “じぶん” デザイン研究所。				
16:30								
17:00								

# アカデミック 京都 ウォッチング

Academic  
Kyoto  
Watching



立命館大学のある京都・滋賀の名所旧跡を訪れる「アカデミック京都ウォッチング」。紅葉シーズン真っ只中の十一月二十二〜二十四日に開催し、多くの方にご参加いただきました。  
今年、トワイライトコースを含む十三コースに加え「源氏物語千年紀」に合わせた特別企画「源氏物語」探究ツアーもご用意しました。教員や学生のナビゲーションのもと、京滋の魅力溢れるスポットを探索できたとの声をいただき、参加者には、学びと楽しさを体験できる「アカデミック」なひとときをお届けすることができました。

## 各コースのご案内

1 「密教美術の宝庫」  
東寺と秋の東山を巡る

国宝の五重塔や薬師三尊像、立体曼荼羅像など密教美術の壮麗さを今に伝える東寺で神秘に触れ、午後からは高台寺、圓徳院、青龍苑、清水寺など東山の名刹を見学しました。

2 雅やかな世界  
—京の茶心と庭園

茶の湯の心に触れながら、京都の名庭を觀賞するコース。「悟りの窓」と「迷いの窓」で知られる曹洞宗の寺院・源光庵を皮切りに、大徳寺、南禅寺、無鄰菴、東福寺を巡りました。

3 源氏物語千年紀  
平安時代の優雅な世界  
—宇治十帖にふれて

紫式部も訪れたと思われる醍醐寺を見学後、昼食には同寺直伝の精進である鯛山料理を。午後からは「宇治十帖」の舞台である宇治へ移動し、物語ゆかりのスポットを訪れました。

4 京都歴史回廊、ハイライト

京都歴史回廊協議会の協力を得た特別企画コース。衣笠キャンパスを中心とした京都歴史回廊エリアにある非公開の寺院を訪れたほか、古から続く期間限定の行事にも触れました。

5 理工学部山崎先生と歩く  
—嵯峨野の歴史的風景

平安時代の皇族・貴族の別荘地であった嵯峨野。源氏物語の舞台となった野宮神社や芭蕉が滞在したという落柿舎をはじめ、嵯峨鳥居本町並み保存地区などをゆっくりと散策しました。

6 文学部山崎先生と訪ねる  
京都の洋風建築  
—明治の息吹を感じて

優れた近代遺産として注目を浴びる洋館が街中に散在している京都。山崎先生と一緒に、今なお残る明治時代の洋風建築を訪ね歩きました。詳しくは、P21の本文をご参照ください。

7 文学部三枝先生と  
秦氏ゆかりの地を訪ねる

渡来系氏族秦氏が聖徳太子から仏像を授けられて建立した日本最古の寺院・広隆寺、秦氏の総氏神であった松尾大社、秦氏創始の伏見稲荷大社など「渡来文化」の足跡を辿りました。

8 文学部二本松先生と歩く  
—京都に眠る武士たちの夢

午前は「後南朝の秘史と伝承」をテーマに嵯峨野を訪ね、午後には金戒光明寺で山門と方丈庭園の特別拝観を見学しました。また、御所ゆかりの「生間流式庖丁」は圧巻でした。

9 文学部井上先生と訪ねる  
—源氏物語と近江八景

「近江八景」の一つ、紫式部が「源氏物語」を執筆したと伝えられる石山寺へ。昼食後、同じく八景の瀬田・堅田を辿り、特に有名な三井寺と堅田の浮御堂を見学しました。

10 湖東の名勝・金剛輪寺と  
近江商人の町・五個荘

午前中は湖東三山の一つである金剛輪寺を訪ね、午後からは近江商人発祥の地・五個荘を見学。近江八幡では、織田信長が宮中の船遊びを真似たといわれる水郷めぐりを楽しみました。

A 幻想の世界  
夜の永観堂拝観

紅葉の名所としても名高い永観堂（禪林寺）を拝観後、南禅寺門前の「南禅寺順正」にて「ゆどうふ会席」を味わいました。

B 久遠の流れ  
—桂川畔に佇む  
松尾大社と嵐山

夜の嵐山・松尾の魅力満載のライトアップコース。通常非公開の松尾大社夜間拝観では、神秘的な世界に浸りました。

C 源氏物語千年紀  
幽玄の光 湖都の石山寺

「源氏物語」が生まれたとされ、瀬田川西岸の景勝地にある石山寺で、ライトアップと夜間特別拝観を満喫しました。

「源氏物語」  
探究ツアー'08

歴史・文学が専門の本学教員がアドバイザーとして同行する一泊二日の特別コース。詳細はP22〜23をご覧ください。

◇佐古愛己先生と  
「撰開期の京の旅」

「撰開期の京の旅」を往く。ゆかりの地および平安宮関連史跡を訪れました。

◇中西健治先生と  
「源氏物語」

「源氏物語」  
—伝承と浪漫の旅—を往く。石山寺や「宇治十帖」ゆかりの地を巡りました。



# 文学部山崎先生と訪ねる 京都の洋風建築 — 明治の息吹を感じて

龍谷大学大宮学舎本館▼柳原銀行▼京都国立博物館▼昼食(がんこ高瀬川二条苑)▼祇園閣▼京都ハリストス修道院▼三条通界隈

京都には日本の伝統的なイメージが色濃い街ですが、意外にも多くの洋風建築が散在しています。優れた近代遺産として注目を集めるレトロな洋館を訪ね歩きながら、明治維新後、衰退した街の復興を願った人々の想いに感じ入る一日でした。

## ■ミニ講義 文学部山崎先生が語る 京都の近代建築が持つ魅力

国指定重要文化財(建造物)の一五%を有する京都は「近代建築の宝庫」と言っても過言ではありません。明治以前の建物の多くが大火によつて焼け失せ、その土地にバラエティ豊かな洋館が次々と建てられたからです。幸いにも、明治以後は戦災に見舞われることなく、多くの建物が残存しています。当時建てられた洋館の多くは、近代化のシンボルでもありました。そこには、近代都市へ生まれ変わろうとする京都再生にかけた決意と熱い想いが込められているのです。

## 明治初期に流行した 擬洋風建築に 京都市民の心意気を見る

文明開化の波が押し寄せる明治初期、大工の棟梁たちは、技術は和風ながらも洋風のデザインを取り入れた建築を手がけます。その努力の結晶の一つが重要文化財の「龍谷大学大宮学舎本館」で、日本を代表する擬洋風建築として知られています。そして、木造銀行建築としては全国でも最古のものの一つである「柳原銀行」。これは「京都文化博物館(旧日本銀行京都支店)」に次ぐ銀行建築です。こういった建築物を見学しながら、新時代に羽ばたこうとした人々の心意気を感じました。

## 最大の見どころである 「祇園閣」をはじめ 多くの近代建築を巡る

昼食を楽しんだ「がんこ高瀬川二条苑」は、和館と洋館を併置し、鴨川から分水した高瀬川の源流としても有名です。自由に見学できる庭園もまた見事でした。



そして、本コースの一番の目玉である「祇園閣」です。通常は非公開で、祇園祭の長刀鉾に似た見た目からそう名づけられました。「銅閣寺」とも呼ばれています。西洋の構造学を基盤に、アジアインダのデザインを加えた摩訶不思議な建物です。最上階からの眺望には感嘆の声が洩れていました。その後、市指定文化財の「京都ハリストス修道院」を見学し、当時の主要道路であったことから近代建築が多く見られる三条通で「みずほ銀行京都支店」「中京郵便局」「京都文化博物館」などを順に巡り、しばしば明治維新の風に吹かれたのでした。

## Interview

吉村さんご家族  
理工学部3回生  
大阪府



ずっと行きたいと思っていて、今年初めて参加することができました。初めて耳にするお話ばかりでとても楽しく、こんな授業を聴くことができる子どもたちが羨ましいです。息子は大学院進学を希望しているので、家族で応援しています。



## 二都物語 — 京都・滋賀 —

# 『源氏物語』探究ツアー'08

二〇〇八年は「源氏物語千年紀」。それを記念して、一泊二日でゆかりの地をめぐる特別コースをご用意しました。一日目は佐古愛己文学部准教授とともに、京都市内の寺社を訪れ、二日目は中西健治文学部教授の案内で、石山寺と宇治を探訪しました。

### 1 日 目

佐古愛己先生（立命館大学 文学部准教授）と

「撰関期の京の旅 — 紫式部と平安貴族のゆかりを求めて —」を往く。

大極殿跡▼紫式部の墓▼昼食（京料理さいき家）▼下鴨神社・糺の森▼廬山寺・梨木神社・法成寺跡▼涉成園  
▼夕食（南禅寺順正）▼ホテル（ラフォーレ琵琶湖）宿泊

見事な紅葉を愛でつつ

紫式部が生きた平安の都へと

タイムスリップする

最初に訪れたのは

「大極殿跡」。大極殿と

は、大内裏朝堂院（大

内裏の正庁）の正殿で、

即位など国家的儀礼や諸政が行われる

場所でした。今回の旅の入口に相応し

く、まずはこの地で平安の都の概要を

学びます。次に「伝・紫式部の墓」へと

参り、傑作文学の生みの親、紫式部の

生き様を偲びました。

昼食は「京料理 さいき家」にて、季節感たっぷりのお料理をいただき、織



細かつ見た目にも美しい旬の味わいに参加者は満足していました。

物語の舞台となった

数々の寺社・名跡を訪ね

登場人物たちに想いを馳せる

光源氏の正妻・葵の上と、後に彼女

を呪い殺してしまう六条御息所の車が

見物場所を巡って争う「車争い」のシー

ンに関係する賀茂祭（葵祭）は、上賀茂

と下鴨両社の例祭です。世界遺産にも

なっている下鴨神社の参道へと続く

「糺の森」は、数々の物語や詩歌管弦に

謡われてきました。樹齢二百〜六百年

にもなる樹々の森には、神々しいまでの自然が残っています。

物語にも登場する

史跡名所からみる

平安貴族の繁栄と衰退

紫式部の邸宅跡と言われる「廬山寺」

で、彼女の一生に想いを巡らせた後は、

御所東にある「梨木神社」や藤原道長が

造営し、壮麗な寺院であったとされる

「法成寺」跡地へと足を運びました。最

後に、東本願寺の別邸「涉成園（枳殻

邸）」へ。この地は、光源氏のモデルと称

される左大臣・源融が営んだ六条河原院

苑地の遺跡と伝えられています。源氏

が今もなお暮らしているかのような錯

覚に陥る場を後にして、一行は湯豆腐で知られる「順正」へと向かいました。

## 中西健治先生（立命館大学文学部教授）と「源氏物語―伝承と浪漫の旅―」を往く。

石山寺▼昼食（京料理 辰巳屋）▼平等院・宇治上神社▼宇治市源氏物語ミュージアム

千年も愛され続ける「源氏物語」が誕生したと伝わる地へ



催しており、人々の目を釘付けにしています。参加した父母は、華やかな王朝絵巻の世界に触れ、満足しています。



能しました。あいにくの雨でしたが、橋を渡って「府立宇治公園中の島」を散策するな

千年の時空を超えて今なお読む者を魅了する「源氏物語」の構想を練ったといわれるのが、滋賀県大津市にある「石山寺」。まずは「源氏物語千年紀 in 湖都大津」(二〇〇八年三月〜十二月開催)の会場として、東大門からの参道で開かれていた「源氏夢回廊」へ。ここでは、世界が認めるロボットクリエイターで、立

命館大学卒業生の高橋智隆氏が紫式部をイメージして開発した「MURASAKI」が展示されています。ロボットの優雅な動きに見入っている参加者も少なくありませんでした。その後、紫式部が「源氏物語」を執筆したと伝わる「源氏の間」を見学。鮮やかに色付いた紅葉を眺めながら、平安の息吹を感じるひとときになりました。

以前参加した友人に勧められて秋の京都を楽しみに来ました。物語を予習してきた甲斐あって、普段とは違った趣を感じ、有意義な二日間でした。また、きめ細やかで温かい校風が実感できて、「学校生活を満喫している」という娘の言葉にも納得できました。

が認めるロボットクリエイターで、立命館大学卒業生の高橋智隆氏が紫式部をイメージして開発した「MURASAKI」が展示されています。ロボットの優雅な動きに見入っている参加者も少なくありませんでした。その後、紫式部が「源氏物語」を執筆したと伝わる「源氏の間」を見学。鮮やかに色付いた紅葉を眺めながら、平安の息吹を感じるひとときになりました。

最後は「宇治十帖」を中心に貴重な展示物を誇る「宇治市源氏物語ミュージアム」を見学しました。物語の魅力やあらすじを紹介する数々の展示はもちろん「バーチャル平安装束記念撮影」など源氏物語の世界を実体験できる国内でも珍しい博物館です。この日は「宇治十帖訪問着」と題した、各帖をイメージした雅な着物が並ぶ特別展も開

催しており、人々の目を釘付けにしています。参加した父母は、華やかな王朝絵巻の世界に触れ、満足しています。



昼食は、宇治川畔「京料理 辰巳屋」の「宇治丸弁当」で彩り豊かな秋の味を堪能

最後は「宇治十帖」を中心に貴重な展示物を誇る「宇治市源氏物語ミュージアム」を見学しました。物語の魅力やあらすじを紹介する数々の展示はもちろん「バーチャル平安装束記念撮影」など源氏物語の世界を実体験できる国内でも珍しい博物館です。この日は「宇治十帖訪問着」と題した、各帖をイメージした雅な着物が並ぶ特別展も開

同行してくださる先生方のお話を聞きながら名所めぐりができるなんて贅沢ですね。娘は大学入学時から院への進学を目指しています。まめに連絡をくれるのであまり心配することなく、娘が望む道に進んでくれることを願っています。



# 立命館大学のキャンパスに AEDが増設されました!



心臓疾患などで突然心臓が停止した時、  
その後いかに早急に蘇生を施すかが生死を分けるといわれています。  
AED(自動体外式除細動器)は、簡単な操作で救命措置を行うことのできる装置。  
今回、父母教育後援会の2008年度事業の一環として、AED設置に対する財政支援を実施し、  
立命館大学の衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、クラブの施設などに  
新たに66台のAEDを設置しました。

## 一刻を争う事態で命を救う AEDの設置を推進

AED(自動体外除細動器)とは、心臓疾患の一つである心室細動の症状が起きた時、医学的な専門知識がなくても救急救命対応のできる装置です。倒れた人の胸に電極パッドを貼り、装置に記されている操作を行うだけで、機械が対処法を判断し、必要な場合は電気ショックを与え、心臓を回復させる(除細動を行う)ことができます。

近年、AEDの重要性は広く社会に定着し、公共の場や人が多く集まる場所に設置が進められています。立命館大学においても、「キャンパス内で四分以内にAEDに到達可能なように設置する」ことを基準として、各キャンパスでAEDの増設に取り組みました。

## AED六十六台増設

今回父母教育後援会は、二〇〇八年度事業の一環として、財政を支援。この財政支援は、キャンパス内での安全・安心施策を進めるために、AED設置に関わる予算措置を父母教育後援会委員会総会において決定したものです。これまで立命館大学に設置されていた十九台のAEDに加えて、新たに六十六台を増設しました。八月月上旬に衣笠キャンパスに三十台、栲野総合合宿所と原谷尚友館に各一台、び



わこ・くさつキャンパス(BKC)に三十一台、ヨット部・ボート部・カヌー部の艇庫に各一台を配置。緊急時の備えに大きく貢献しています。

## AEDの使い方

### 〈最初に〉

倒れている人を見たら、周囲の人に知らせ、救急車を呼ぶ。意識・呼吸の有無を確認し、必要なら人工呼吸と心臓マッサージを施す。AEDの準備ができたなら、AEDに切り替える。

### ① 電源を入れる

それ以降は、AEDの音声ガイドに従って操作する。

### ② 電極パッドを装着

上着を脱がせ、汗や水、貼り薬などを拭き取る。指定された位置に電極パッドを貼る。



### ③ スイッチを入れる

機械が自動的に除細動の必要の有無を判断する。必要な場合は、その旨の音声が出る。

### ④ 除細動ボタンを押す

周囲の人や自分自身が患者に触れていないことを確認し、除細動ボタンを押す。救急隊が到着するまでAEDの指示に従って対処を続ける。

## 全職員の三分の一受講を目指し AED講習会を実施

立命館大学では、万一キャンパス内で緊急救命対応が必要となった場合、的確にAEDを使用できる教職員を育成するため、講習会を実施しています。所管の消防署の協力を得て、各部署で最低男女一人ずつの教職員、さらに体育会の監督・コーチが率先して講習を受講しています。講習では、消防署員の指導のもと、救急救命について実践的なトレーニングを受けます。受講者は、救急救命についての基本知識とAEDの使用法を学び、受講後、受講証を受け取ります。

今後も衣笠キャンパス、およびBKCにおいて、年五〜六回「救命救急講習会」を開催する予定。計画通りに講習を継続すれば、契約職員を含めた全職員の約三分の一が受講証を受け取ることになります。





# 練習場所に携帯用AED おかげで安心して練習できる

アスレチックトレーナー 井上雅喜さん



現在、私はアスレチックトレーナーとして、ラグビー部を中心に選手の健康管理やトレーニング指導、怪我の応急処置などに携わっています。立命館大学を卒業後、アスレチックトレーナーを目指して渡米し、アメリカでスポーツトレーニングを学びました。アメリカでもAEDの重要性は認知されており、私も使い方の講習を受けました。

心肺が停止した時、一分対応が遅れるたびに、数%ずつ生存率が下がるといわれています。AEDはそうした一刻を争う時の強い味方。落ち着いて操作すれば、誰でも簡単に心肺蘇生を行うことができます。現在ラグビー部が練習するBKCグリーンフィールドでも、アスリートクラブハウスの玄関に常設されています。また合宿や試合には、携帯用を持参します。今回、BKCに三十一台を増設していただいたほかにも、クラブ貸出用のAEDが五台あります。ラグビー部の学生も、これまでに以上に安心して練習に打ち込むことができます。



## キャンパス A E D 設 置 M A P



# CAMPUS LANDSCAPE

11月に開催された「2008年度立命館大学学園祭」では学生をはじめ、地域の方々や校友、父母といった大勢の来場者でにぎわいました。今年のテーマ「COLOR～一人ひとりの個性が響く Rits Festival～」の通り、学生がこれまでの活動や生活で得たものや感じてきたことを表現し、それぞれの個性を発揮していました。自分たちの手でつくり上げ、そして活躍した学園祭の学生の様子をご覧ください。

## BKC

11月8日(土)9日(日)にびわこ・くさつキャンパス(BKC)で開催された「BKC本祭典」は、キャンパス中央部に設けられた大迫力の特設ステージでのイベントをはじめ、パフォーマンスや模擬店、さらにサークルの活動発表などが行われました。そして、最終日の夜空にはエンディングの花火が打ち上げられました。

ステージ  
イベント

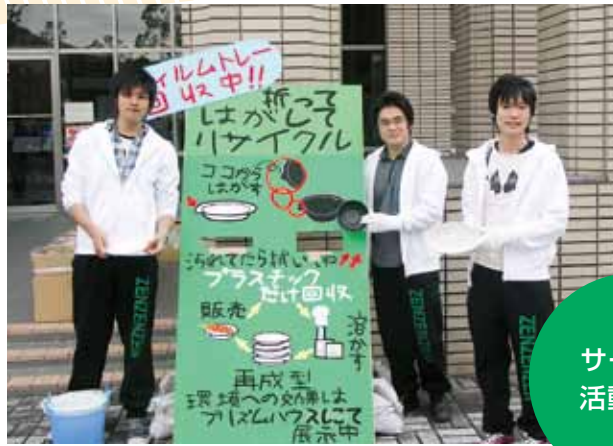


音楽演奏やダンスなど、学生の熱いステージが繰り広げられ、観客と一体になって盛り上がりを見せました。

## パフォーマンス

大人気のプロレスをはじめ、サークルパフォーマンスがキャンパス各所でにぎわいをみせていました。





サークル  
活動発表

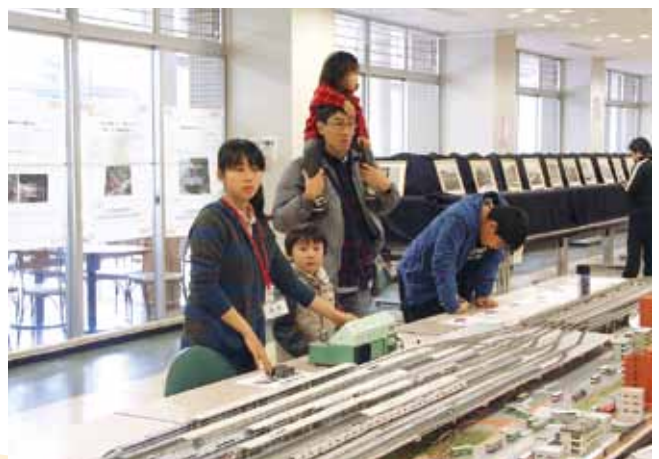


サークル活動のパネル展示や鉄道模型の設置、さらに科学実験など、日ごろの活動成果が発表されていました。



エンディング  
花火

BKC本祭典のエンディングでは、父母教育後援会が提供する打ち上げ花火が、鮮やかに秋の夜空を彩りました。



# 衣笠キャンパス

「衣笠本祭典」は11月15(土)16日(日)に衣笠キャンパスで開催されました。手づくり感あふれるデコレーションがキャンパスを彩り、中央と西側の広場に設置された2つのステージや、キャンパスを埋め尽くす数の模擬店とフリーマーケットでにぎわいました。また、課外活動発表の会場にも多くの市民が来場し、学生たちは日ごろの活動の成果を広くアピールしていました。

学生の  
活動発表



サークル活動の展示、さらに識者を招いた講演など、充実した内容でした。



模擬店

約120の出店数。リユース食器を取り入れ、エコへの取り組みにも力を入れています。



大盛況の  
ステージ



リング周辺に大勢の観客が詰め掛け、注目を集めたプロレス。ダンスと映像を織り交ぜた舞台也大盛況でした。



よさこい  
サークル演舞



よさこいサークルによる演舞。来場者と一体になって楽しく踊り、会場を盛り上げました。



エンディング



エンディングのステージは迫力満点。来場者を魅了し「2008年度立命館大学学園祭」の有終の美を飾りました。



# 新入生父母 アンケート結果報告

本学では、学生実態を正確に把握することによって、正課学習や課外活動における適切な学生援助の実現をめざしています。そうした実態把握の一環として、新入生の父母の皆様を対象としたアンケートを、お子様が最初のセメスターを終えられた時期であり、お子様とお話をされる機会が比較的多い時期である8月に実施しています。

ご多忙にも関わらず、今年度も多くの父母の皆様からご協力をいただきありがとうございました。お寄せいただいたご意見・ご提案につきましては、今後の学生援助、また援助政策を充実するにあたっての貴重な資料として活用させていただきます。

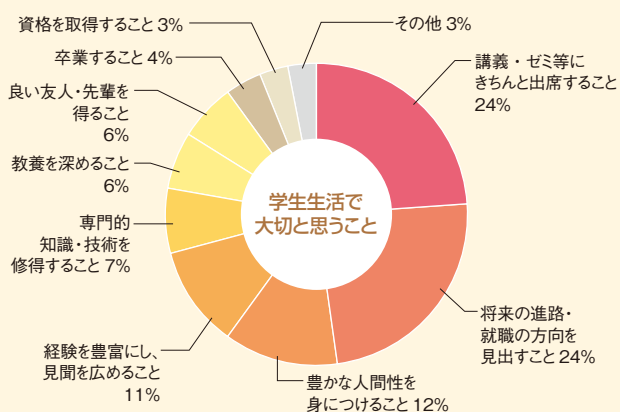
以下、アンケート結果の概要を報告させていただきます。ご参考いただければ幸いです。

## アンケート実施概要

- ◎実施時期：2008年8月
- ◎実施対象者：2008年度新入生の父母・保証人から無作為抽出により3,000名を抽出
- ◎回答数：1,163名（回答率 38.7%）

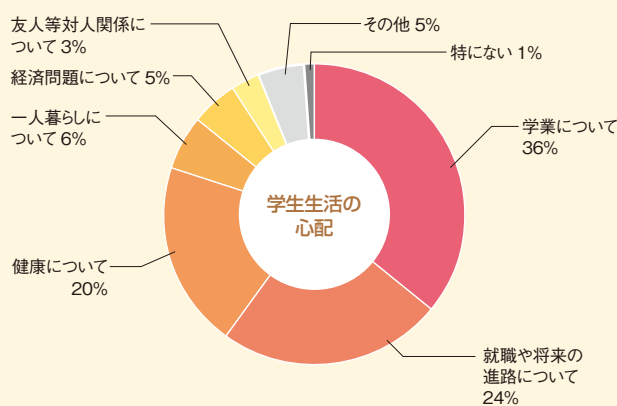
## ■主な質問と回答（選択回答：抜粋）

Q 今後の学生生活で大切だと思われることは何ですか。順位をつけてお答えください。（第一順位の回答）



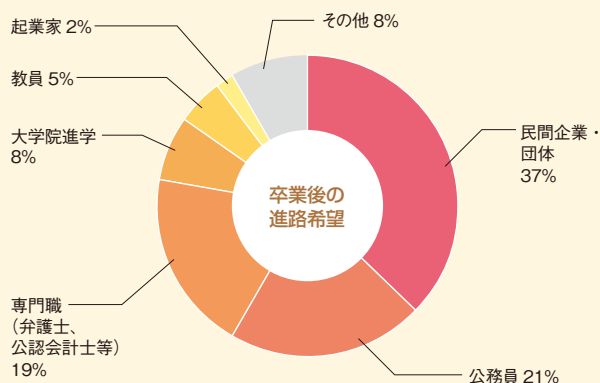
「講義・ゼミ等にきちんと出席すること」が24%、「将来の進路・就職の方向を見出すこと」が24%、次いで「豊かな人間性を身につけること」が12%でした。

Q お子様の学生生活に関して心配されていることは何ですか。順位をつけてお答えください。（第一順位の回答）



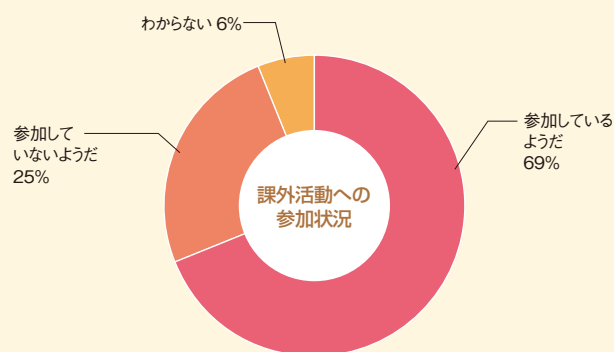
前項の「大切だと思うこと」の上位回答「学業」と「進路」、これらを支える「健康」について心配なさっている様子が伺えます。大学としてもさまざまな形でサポートしておりますので、各相談窓口をご活用ください。

Q 大学卒業後、どのような進路を選択してほしいですか。



ご参考までに、今年（2008年3月）の卒業生の進路をご紹介します。就職72%、進学18%、その他（受験準備など）が10%でした。また、キャリアサポートについては、父母教育後援会会報2008年度夏号で特集しておりますので、ご活用ください。

Q お子様は課外活動に参加されているようですか。



大学の調査によると、全在学生の課外活動への参加率は52%です（2008年10月現在届出数）。

# Q & A

## 奨学金に関する質問

アンケートに寄せられたご質問の中から、経済的支援を目的とした奨学金に関する質問にお答えします

**Q 日本学生支援機構の奨学金を受けても、学内奨学金を受けられるのでしょうか？**

**A** 受けられます。学内奨学金はほとんどが給付制です。条件が合致する方は、日本学生支援機構奨学金受給の有無に関わらず、積極的に出願されることをお勧めします。

**Q 奨学金の選考の際、兄弟の数や年齢は考慮されませんか。また、住宅ローンがあることは考慮されませんか。**

**A** 奨学金の選考にあたっては、ご家庭の状況—例えば、ご兄弟の就学状況・単身赴任・長期療養の有無など—を考慮し、定められた金額を収入から控除したうえで、選考しています。そのため、同じ収入であってもご家庭の状況によって採否が異なってきます。

例えば、日本学生支援機構奨学金の募集における収入基準は、あくまでも「目安」とお考えいただき、まずは出願されることをお勧めします。

なお、いずれの奨学金の場合でも、住宅ローンは控除の対象とはなりません。

**Q 子供が自宅外生の場合、奨学金の対象にならないと聞いたのですが…。**

**A** 全ての奨学金は自宅外生・自宅生ともに対象となります。これまで「自宅外生だから」との理由で出願してこられなかった方は、次の機会にぜひ出願をご検討ください。

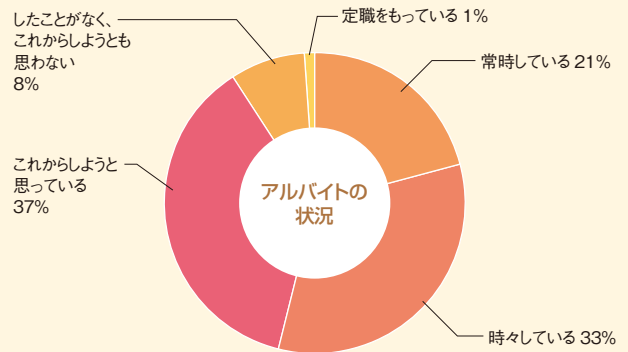
**Q 奨学金の制度を詳しく知りたいのですが。**

**A** 大学のHPにてご案内しています。http://www.ritsumei.jp/scholarship/index\_j.html をご覧ください。

**Q 低金利の教育ローンがあれば教えてください。**

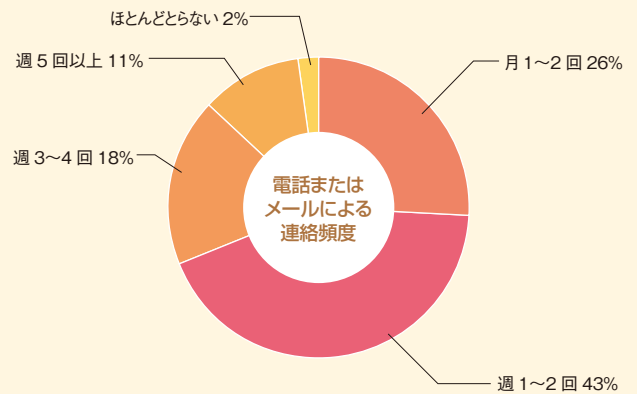
**A** 窓口にご相談に来られた場合、最初にご紹介していただきますのが日本政策金融公庫（旧国民生活金融公庫）の教育ローンです。最寄の金融機関でお手続きいただけます。詳細はHP・電話・最寄の金融機関にてご確認ください。この他に、三井住友銀行・京都中央信用金庫と提携した、「りつめいキャンパスローン」もあります。概要は、学生オフィスにお問い合わせください。

**Q 現在（8月現在）、アルバイトをしておられますか。**

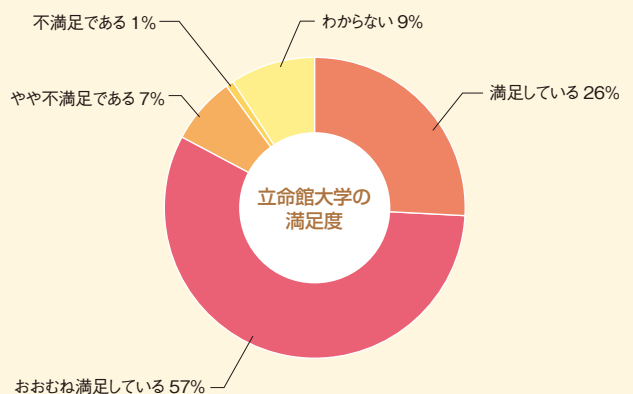


アルバイトをしておられる方の月収の最多回答は、「2～4万円」（49%）でした。学業や課外活動とのバランスを考慮しながらアルバイトをしておられる様子が見えます。

**Q （お子様が自宅外通学をされている方対象）電話やメールなどでお子様とどれくらい連絡を取られていますか。**



**Q 父母として立命館大学に対する満足度はどの程度ですか。**



連載

# 立命館のゼミナール訪問① 小木ゼミ (国際関係学部)

● 小木ゼミ 国際関係学部 小木裕文教授 ● 研究テーマ…東アジア比較研究―アジアの多様な文化社会と価値を探る―

小木ゼミでは三、四回生合わせて二十八人のゼミ生がともに学んでいます。学生がどのように活動し、学んでいるのでしょうか。学生にゼミを紹介してもらい、小木教授にインタビューしました。

Ritsumei Seminar

## アジアの情勢変化を分析し「文化と社会」について研究

国際関係学部三回生 佐藤 功さん

小木教授は東南アジアの華人社会、華語文学、華人ネットワーク、中国新移民、現代中国及び台湾の社会、日中文化交流史、東アジアの大衆文化などを専門にされています。また、アジアの食文化にも興味を持たれ、チャイナタウンでの屋台の食べ歩きを趣味にされています。

このゼミではフィールドワークを重視しています。今年、神戸のチャイナタウンや華僑歴史博物館を見学した時には、小木教授が美味しい中華料理のお店に連れて行ってくださいました。食文化は研究テーマの一つでもあります。また、留学するゼミ生が多いことから、ゼミメンバーの入れ変わりが激しいのも特徴だと思います。授業では文献講読をもとにした学生の発表や、孔子の『論語』の説明に関する講義が中心です。小木教授は東アジアや東南アジアの面白い話や豆知識が豊富で、どの話もとても興味深いものばかりです。

現在のアジアは民主化要求、宗教や民族の対立、領土・資源紛争、開発と環境汚染、テロ、核開発、エネルギー・食糧、経済格差といった



様々な問題に

直面しています。この難局に立ち向かうため、いずれの国でも「経済の安定化」や「政治改革が有効的に機能すること」が求められています。本ゼミではアジアの新しい情勢変化を分析しながら文化摩擦、多民族国家における国民統合の在り方、

多文化を求めるエスニシティ、アジア型民主主義と経済発展、開発と社会発展、多文化主義、伝統と近代化、華人ネットワーク、中華思想、大衆文化、比較教育、人権と治安、東アジア共同体など「文化と社会」について幅広く考えていくことを目標にしています。

地域研究を行う場合、その研究対象を当該地域だけに限るのではなく、比較研究という方法を導入し、研究や理解が進展していくと考えています。アジアの共通性や類似性、対照性、異質性などを持った二国間・二地域間の比較研究から、他国間・他地域間の比較研究へと発展し、さらに異なる文化・文化圏との比較研究へと拡大させていきたいです。

### 授業風景



授業ではゼミ生が順に発表し、プレゼンテーションの力をつけています。この経験が就職にも大きく影響しています。



真剣な表情で発表を聞く学生たち。プレゼンの後は感想や質問など、積極的な意見交換が行われます。



興味深い話で学生を惹きつけ、研究分野の面白さを伝える小木教授。





## プレゼンで成長

最近の学生は課外活動や留学など、何事にも活発なところが特徴ではないでしょうか。そのパワーはゼミでも発揮されています。私のゼミではフィールドワークを重視しており、実際に中国人にまつわる場所を見学し、自身の目で見て、考えることに力を入れています。現地での学びは想像以上に刺激的なようで、独自でフィールドワークに挑戦する学生もいます。

ゼミでは順に研究成果を発表しますが、資料の作成や発表の仕方、さらに人前で自身の体験談を話すことなどによる学びは多く、プレゼンテーションを通じて学生は成長しています。

この経験が就職にも大きく影響しており、ゼミ生は自身がめざす業界の就職内定を勝ち取っています。就職先はマスコミ、金融、メーカー、サービス業、貿易関係など様々で、大学院に進学する学生も比較的多いです。

## 「虫の目と鳥の目」を大切に

ゼミ生には「虫の目と鳥の目」を大切にしてもらいたいです。鳥の目で全体を見ながら虫の目で細かいところを見る力を養うことで、一点だけでなく、様々な角度からの視点が生身につくと思います。それは、この授業だけでなく、将来に活かすことができる力になるはずです。

私は大学院生の頃に中国文学に魅了され、卒業後は東南アジアに関心を持ちました。中国は七十年代から常に変化していますが、その中



で、移民の流れに興味を

抱きました。年代によって移民の流れにも変化があり、その変化の研究に面白さを感じています。現在は発展著しい福建省の村や町、そして新しい移民のスタイルについて研究しています。

## 研究分野の面白さ伝えたい

この研究分野の「面白さ」を学生に伝えることが私の喜びです。研究内容を論文にまとめ終わりではなく、これから可能性がある学生に還元し、研究分野への関心を高めたいです。

学生とは一緒に食事することもあり、ゼミ以外でも楽しく付き合っています。卒業後もメールや年賀状で連絡を取り合い、交流がずっと続くのが嬉しいのです。私の研究室には、これまでの卒業生の写真が何枚も飾っており、時折眺めることがあるんです。「元気にやっつるかなあ」と。

父母の皆様、立命館の教員は、学生の可能性を引き出すために頑張っています。そして、学生は自分の可能性に挑戦し、生き生きと個性を伸ばしています。お子様を温かく見守ってください。

## Student's Voice

## 日中両国の懸け橋になりたい

国際関係学部4回生 黄東海さん



私は中国出身の留学生です。中国について、中国人の目で見るだけでなく、外国からの視点をプラスし、中国の立体像を全面的に研究しようと思い、小木教授のゼミを選びました。小木教授は中国だけでなく台湾、シンガポールなど東アジアの国と地域の事情をよくご存じで、とても驚きました。また、大変優しく、私たち学生を全力で支えてくださっています。その指導のもと、私は今「中国の歴史教科書」と「日本の中国の歴史書物（主に近代史）」の比較をテーマにしたレポートを書いています。このゼミを通じて様々な角度で問題を見る視点や、それを理解した上で解決法を探し出す力が身についたと思います。将来は中国や日本で活躍できる社会人になり、日中両国のお互いの深い理解につながるような懸け橋になりたいです。

## Student's Voice

## 東アジアの体験談が面白い

国際関係学部3回生 小見山あおばさん



以前から『三国志』や『水滸伝』、『楊家将』などの歴史小説が大好きで、中国に強く関心を持っていたこともあって、このゼミを選びました。しかし、中国の歴史や物語像の美化された部分だけしか見てこなかったため、2回生の春休みに参加した「異文化理解セミナー」では中国の現状を目の当たりにし、驚かされました。都市農村の経済格差、人口問題と環境汚染、国による厳しい監視・規制や人権抑圧、さらに最近では食品の安全性などが話題になっていますが、これらは広い土地を擁する中国で長い歴史を通して発生した根深い問題だと考えます。東アジアの知識や体験が豊富な小木教授のお話は大変面白く、こういった問題に取り組むための糸口を与えてくれます。

## 編集後記

「何とかなる、そして何とかする」。就職活動に行き詰まった学生に贈る言葉だ。「自信を持って」という励ましと「自分の力で乗り越えろ」という願いが込められている。「華人ネットワーク研究」のバイオニアである小木教授の趣味は「アジアの食文化めぐり」。南京町や中華街の屋台の穴場探しを好む、根っからの研究者気質だ。「何とかする」は自身の生活信条でもある。

連載

# 立命館のゼミナール訪問② 鉛山ゼミ(理工学部)

● 鉛山ゼミ 理工学部 鉛山恵教授 ● 研究テーマ…高機能、高性能材料の開発

未来の技術者を育てる鉛山ゼミでは特殊な装置を使った金属実験の研究発表など、理系のゼミならではの授業が展開されています。授業を取材し、鉛山教授にお話をうかがいました。

Ritsumei Seminar

## 信頼関係が研究の原点 実験に打ち込む「卵」たち

学部生十一人をはじめ、大学院生、社会人研究生を含む計二十三人の研究者の「卵」が所属しています。留学生も多く、国際色豊かなゼミです。理工学部では研究室に所属し、週一回ゼミの授業が行われます。卒業研究室の選択は三回生の十月から始まり十二月に仮配属、翌年四月から本配属という流れで、今年度の四回生の中から五名が大学院に進学する予定です。

この研究室では、金属の配合や加工を通じて新しい素材を創り出す研究に取り組んでいます。日々の実験以外に、研究室全員が集まるとのゼミが週一回あり、研究発表や論文紹介などが行われます。研究には特殊な実験装置が必要で、ゼミ生たちは、この装置を使って研究に打ち込んでいます。

鉛山ゼミは活発さが特徴です。「積極的な意見交換が行われている」「このゼミに入ってから、自分で何かをやらなければならぬという気持ちが強くなった」といった学生の声も上がっています。このモチベーションの原点にあるのが「信頼関係」です。

理工系のゼミは、文系とは違ってグループで研究することが多く、鉛山ゼミでも二〜四人の

チームで研究を進めています。そのため、鉛山教授が最も重要視するのが学生とのコミュニケーションです。時には一緒に鍋を囲み、そして頻りにゼミコンパを開くなど、交流の場を大切にしています。それにより「ともに困難を乗り越え、達成感を味わえる関係が築かれていると思います」(鉛山教授)。それが学生の挑戦心へとつながっているのです。

研究発表の授業をのぞいてみました。パソコンで作成したプレゼンテーション資料をスクリーンに映し、学生が自信に満ちた口調で発表しています。中には、英語で発表する院生もいます。基本的に資料はすべて英語表記です。「間違ってもいいから」と、鉛山教授は英語での作成を指導しており、こういった高いハードルの設定が、学生を大きく成長させているのです。

発表の後は、ゼミの活発さを象徴するかのよう、鉛山教授の意見や学生からの質問が飛び交います。時には厳しい指摘もあります。しかし「大勢の人を前に英語で発表したことが自信につながった」と、国際学会で発表した経験を持つ院生が言うように、学生がゼミを通じて達成感を味わっていることは間違いありません。



研究発表では、研究成果を基に作成した資料をスクリーンに映しながら、学生が自信を持って発表しています。



息の合ったチームワークで、金属を熱処理する装置や粉末にした金属を押し固める機械などの特殊な実験装置を使い、日々の研究に打ち込んでいます。



授業風景



## 研究は「料理」のようなもの

材料工学の研究は「作る分野」と「評価する分野」の二種類に分かれ、私の研究は「作る分野」です。例えば、自動車レースのF1で各メーカーが性能を競い合い、その技術を一般車に派生していますが、このように材料の性質と性能について研究し、実用性のあるデータの獲得をめざしています。

私にとって研究は「料理」のようなものです。プライベートでも料理好きですが「どうすれば新しい料理を作り出せるか」など、色々と試行錯誤しています。それは研究も同じで、身近にある素材から新しい材料を創り出した時の達成感は病みつきになります。

## 受け身でなく自ら考え行動せよ

最近の学生は真面目でおとなしい印象があります。言われたことはやりますが、それ以上のプラスαが不足しています。研究は自分で課題を見つけ出し、その解決に向けて実行していくものです。だからこそ受け身でなく、自分で考えて行動する意識を持つよう指導しています。

研究者の道を志すなら、ぜひ大学院に進学し、チャレンジしてほしいです。私の研究室では四



人前後のチームをつくり、リーダーの院生の指導の下で学部生が研究していますが、学部生は三回生後半からの一年数カ月の期間で、研究の基礎を学ぶだけで終わってしまいます。

近年、理工系の技術者の就職は大学院卒業が人気を集めています。それは企業が即戦力の人材を求める傾向が強まっているからです。そのため、研究課題を見つけ出し、リーダーになつて指示を出す力を身につけた院生が、技術者の就職市場では人気を呼んでいるようです。

## チャレンジさせる使命

また、大学院では文科省の「大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）」に採択された立命館大学大学院独自の「理工国際プログラム」があります。このプログラムは技術者にとって最適な武者修行の場です。参加した院生は大きく成長しています。

私が学生の頃、ゼミは怖い場所でした。多くの失敗もしました。しかし、その壁を乗り越えた時の達成感も経験しました。学生にもその喜びを味わってもらいたいです。

そのためのチャレンジの場を提供するのが私たち教員、そして大学の使命です。挑戦して失敗し、その壁を乗り越え、成長するといったスパイラルが自信となり、視野の広がりにつながります。学生とともに「ハッピーにしんどいこと」に挑戦していきたいです。

父母の皆様には、学生の向上心を後押ししていただきたいと思えます。精神面の支えになってください。

## Student's Voice

## 身についた問題解決力

理工学部4回生 木村圭佑 さん

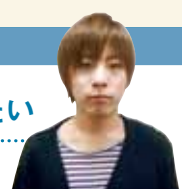


学生にとって研究室の選択は非常に重要だと思います。私は就職先に鉄鋼業界を希望していたため、金属材料の研究が就職活動や就職後に役立つと考え、さらに鉛山教授が進路について親身になって対応していただける方と先輩から伺っていたこともあり、鉛山研究室を選びました。就職について何度も相談しましたが、鉛山教授は私の将来について真剣に考えてくださいました。就職面接では、研究室での研究内容や「そこから何を学んだのか」などについてよく聞かれます。私は金属材料内部の「析出相」という分野について研究しており、研究活動を通じて物事の本質を論理的に考えて問題を解決することを学びました。ゼミではプレゼンテーションの機会が多く、この経験は就職後も活かすことができると思います。

## Student's Voice

## 研究成果を多くの人に披露したい

理工学部4回生 山下洋輔 さん



この研究室を選んだ理由は、3回生時の鉛山教授の授業で材料分野について興味を持ったこと、そして国内外での学会の参加の機会が多いことに魅力を感じたからです。進路は大学院への進学を予定しています。4回生の卒業研究で大学院の先輩の指導の下、研究する中で、院に進学し、自分で計画を立て、より深く研究に取り組みたいと思いました。研究室では週1回のゼミに加えて毎日の研究に打ち込んでいます。ゼミは各研究チームの報告と議論の場で、進捗状況だけでなく前期は論文を調べ、発表もしました。こうした発表の機会を通じてプレゼンの方法、中でも他人に分かるように説明することの難しさを実感しました。院へ進学した際には学会に参加し、研究成果を多くの人に披露したいです。

## 編集後記

研究室内に掛けられた色紙の「百聞は一見に如かず」は、鉛山教授の研究スタイルの原点だ。夢は「立命館大学オリジナルの材料を作り出し、技術を確立すること」、そして「研究分野をリードする学生を育てること」。日々、学生とともに実験に打ち込む研究者であり、教育者でもある。「学生と飲む機会が多いんですよ」と笑顔がはじけた。時にはよき「親父」でもある。

\* 理工国際プログラムとは…文科省より2007～2009年度大学院教育改革支援プログラム「国際力を備えた技術系大学院学生の育成」(通称:理工国際プログラム)の採択を受けました。このプログラムは世界で活躍する理工系技術者、研究者の養成が目的で、3ヵ月間の集中英語トレーニングや海外の企業、および大学研究室での実践研修などが行われます。英語トレーニングの費用と海外派遣先までの交通費は全額補助されます(各種保険、宿泊費、生活費などは自己負担)。プログラム修了生は英語力の向上による自信や、海外派遣先での厳しさの経験、さらに様々な出会いなどを通じて、あらゆる面で成長しているようです。

# ザの予防

## 3. 風邪やインフルエンザにかかったときは

1 速やかに医療機関・保健センターを受診してください。

2 ウイルス性疾患の場合、基本的には対症療法しかありません。安静・休養・栄養と水分補給がもっとも有効な治療法です。

①風邪に抗生物質は効きません：抗生物質は細菌感染を治療するもので、ウイルスに対しては全く効果がありません。ただし、黄・緑色の鼻汁・痰などが出る場合は二次的に細菌感染を併発している場合があるため、抗生物質を使用することがあります。

②抗インフルエンザ薬のタミフルによると思われる異常行動が問題となっているため、保健センターでは学生さんへのタミフルの処方はいりません。



## 4. 「咳エチケット」

周囲へ感染を広めないように、咳が出るときはマスクをするようにしてください。

ちょっとした心配りが大切です。

## 5. 学校からのメールを確認しましょう

1 近い将来新型インフルエンザが流行する可能性があります。流行が始まれば相当な社会的混乱が予想されます。すべての学生さんに速やかに情報提供・連絡するにはメールが有効です。(個人でできる対策は後述のホームページを参照してください)

2 インフルエンザ予防接種の実施詳細など、保健センターからの連絡もメールで配信しています。

3 立命館大学はすべての学生にメールアドレスを提供しています。必ずこのメールを定期的に確認するようお子様にご指導ください。

### 【参考】

●保健センターホームページ・インフルエンザ予防接種の案内  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/gl/hoken/>

●インフルエンザQ&A  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/07qa.html>

●新型インフルエンザ対策関連情報  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>  
[http://www.phcd.jp/shiryo/shin\\_influ.html](http://www.phcd.jp/shiryo/shin_influ.html)

●個人でできる新型インフルエンザ対策  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/11.html>



立命館保健センター  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/gl/hoken/medical-j.html>  
保健センター-衣笠 TEL.075(465)8232  
保健センター-BKC TEL.077(561)2635

# 風邪の予防・インフルエン

## 1. 風邪とインフルエンザは違います

風邪とは、単一の疾患ではなく、ライノウイルスなどのウイルス感染による上気道（鼻腔や咽頭等）の炎症性の病気で、咳嗽、咽頭痛、鼻汁、鼻づまりなど局部症状（カタル症状）、および発熱、倦怠感、頭痛など全身症状を呈する状態の総称で、正式には「かぜ症候群」と言います。通常、重症化することは稀ですが、初期症状が風邪と似た疾患が多数あり、インフルエンザとの鑑別も難しいことがあるため、必ず医師の診察を受けるようにしましょう。

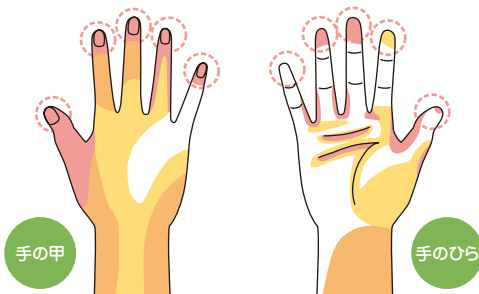
一方、インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器系の感染症で、普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られますが、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れ、肺炎・脳炎など重症化することがあるため注意が必要です。

## 2. 予防方法

- 1 もっとも基本的な予防は、過労を避け、十分な栄養と休養をとることです。
- 2 うがいや手洗いも大切です。手を洗う際には、爪の間や指の付け根など、洗い落としの無いよう石鹸を使って丹念に時間をかけて洗きましょう。

### 手洗い損ないやすい部分

■ 最もミス発生頻度が高い ■ ミス発生頻度が高い ■ ミス発生頻度が低い



### 手洗いの仕方



- 3 風邪やインフルエンザが流行しているときは、やむを得ぬ用事以外は人混みや繁華街への外出を控え、外出時にはマスクを着用することも心がけましょう。
- 4 インフルエンザには予防接種が有効です。100%の予防効果がある訳ではありませんが、重症化することは避けられます。ワクチン接種約2週間後から5ヵ月間は予防効果があると言われています。今年も、キャンパス内および近隣医療機関で予防接種を行います。積極的に受診するようお子様方にご指導ください。

# 輝いています、ときの人



## 念願の全国初制覇！自転車競技は「私の生きる原動力」

今夏行われた、全日本大学対抗選手権自転車競技大会（インカレ）・男子スプリント競技で優勝を果たしました。中学・高校と全国大会での優勝を逃してきた私にとって、念願の全国初制覇です。準々決勝、準決勝とモチベーションと集中力を上げることができ、自分の予選タイムを上回る選手を押しえて決勝に進むことができました。

決勝は3本勝負で、2本先取したほうが優勝。相手に1本目を取られてしまい、2本目までの休憩時間中、頭に浮かんでくるのは負け試合のイメージばかりでした。そこで私は「負けるなら全力を出し切って、派手に負けてやろう」と思い立ちまし

た。吹っ切れた気持ちで試合にのぞんだ結果、無事に2本目を取ることができました。そして、ラストの3本目。ゴールラインをくぐった瞬間、「やっと勝てた」という安堵感とともに自然に涙が溢れ、先輩や父親とも抱き合って喜びました。

小学生の時にワールドカップのテレビ中継を見て、「自転車でこんなにも早く走れるのか」と感動したことが、この競技を始めたきっかけ。今や、自転車競技は私にとって生きる意味・目的そのものになりました。現在の最大の目標はインカレ連覇。そして、将来はプロになることを目指して、これからも走り続けます。

取材・文/村嶋志穂 (政策科学部2回生)



全日本大学対抗選手権  
自転車競技大会  
男子スプリント競技 優勝  
自転車競技部  
石口慶多さん  
(政策科学部2回生)

## 日英合作のドキュメンタリー映像で伝える「多様なコミュニケーション」



「UK-Japan 2008」  
公認イベント  
英日合作映像プロジェクト  
代表  
友近結理奈さん  
(経営学部3回生)

日英修好通商条約調印150周年を記念して開催される「UK-Japan 2008」。その公認イベントに、演習科目「プロジェクト研究」を履修する私たちが中心となって取り組んだ「英日合作映像プロジェクト」が認定されました。このプロジェクトは、映像制作を通して自分たちのマネジメント力やプロデュース力を発揮し、その作品を多くの人に発信したいという思いから企画したものです。

ロンドン芸術大学と京都造形芸術大学の学生の制作協力を得て完成した作品のタイトルは、「2 way love」。これは、1 way love (片思い)の造語で、想いを伝えることの難しさを表

しています。撮影は日英両国で行い、異なる文化を持つカップルや同国籍の男女・親子など、さまざまな立場のコミュニケーションを撮影しました。

企画構想に1年をかけ、スポンサー探しやイギリスの学生との意思疎通などで苦労しましたが、「無から有をつくり出すおもしろさ」「想いを伝えることの大切さ」「恐れずに挑戦する精神」など、たくさんのことを学びました。

作品は学園祭での上映後、映画祭への出品やインターネット配信が行われる予定。将来はこの経験を生かし、イベントなどを通じて何らかのメッセージを伝える仕事がしたいです。

取材・文/木幡達也 (経済学部2回生)

## 地域住民と学生の架け橋になる「防犯ボランティア活動」を実施

私が代表を務めるサークル・Bridge (ブリッジ) は、BKC学生の多くが通学や生活の拠点とする南草津地域の方々との交流を大切にしたいボランティア活動を行っています。

Bridgeの主な活動は3つ。まずは、月に1回行う「防犯パトロール」で、青少年育成区民会議の皆さんと、夜間の駅周辺や娯楽施設、住宅地をパトロールしています。2つめは、毎週土曜の朝に実施している「ゴミ拾い」。挨拶運動も同時に行っており、地域の方から「ご苦労様」と声をかけてもらった時は、とてもうれしいです。最後は、今年度から始めた「自転車の盗難防止運動」。BKC内2カ所の駐輪場を週3回ほど見回りし、鍵

の抜き忘れチェックや整列作業を行っています。

このようなBridgeの活動が認められ、滋賀県の『「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり大賞』を受賞したことは、大きな励みになりました。また、私たちが作成した「地域安全マップ」は新入生に配布されただけでなく、地域の小学校や市役所からも是非貼りたいとの反響をいただいています。

Bridgeの活動を通して、地域の方々と触れ合うことは自分を磨き、将来に活けると実感しています。いろんな人と接する機会の大切さを知るためにも、多くの学生に参加してほしいですね。

取材・文/長谷友香 (経営学部2回生)



学生ボランティアサークル  
「Bridge」代表  
堀 祐土さん  
(経済学部3回生)



## 学内外で活躍する“旬の立命館大生”をWebで紹介!

学園の最新情報を、学生向けに発信するウェブサイトが「RS Web」。ここに掲載されている「輝いています、ときの人」では、学術・課外活動・語学研修・ボランティア活動・ベンチャー事業など、さまざまなフィールドで活躍する“旬の立命館大生”を続々と紹介しています。父母の皆様も、是非ご覧ください。

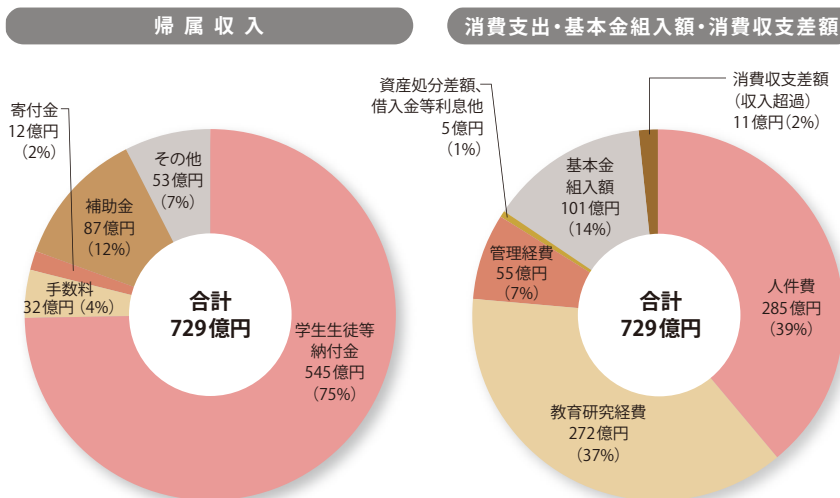
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/rs/index.htm>

# 2007年度財務報告・2008年度予算(概要)

※+R Reportより抜粋

立命館大学の2007年度財務状況および2008年度予算についてお知らせします。

## 立命館学園の2007年度の収入・支出の特徴



### 消費収支差額

消費収支計算書は学校法人の経営の状況を表します。学園の2007年度決算では11億円の収入超過でした。立命館では消費収入(=帰属収入-基本金組入額)と消費支出が均衡となるように財政運営をおこなっています。

### 基本金組入額

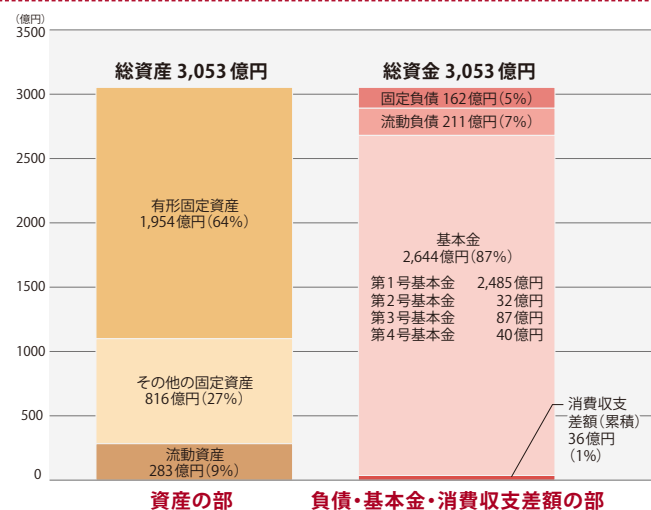
2007年度は、充光館(映像学部教室棟)やサイエンスコア(薬学部教室棟)の建設事業や奨学基金への積み立てなどを行い、101億円を基本金に組み入れています。帰属収入に対する比率は13.8%です。

### 自己資金

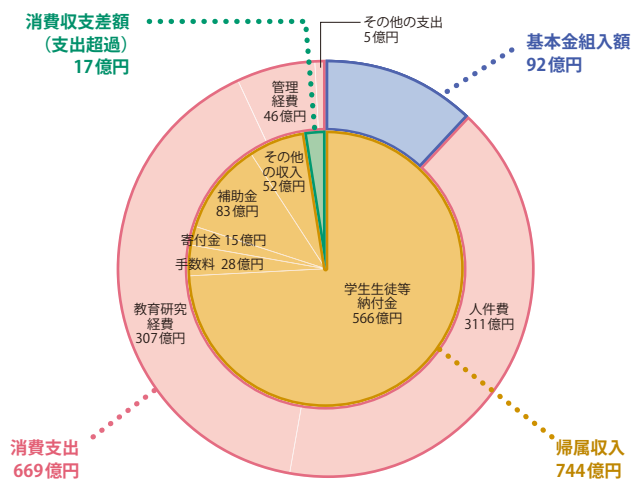
貸借対照表は学校法人の財政状況を表します。2007年度末では自己資金(=基本金+累積消費収支差額)が2,680億円、他人資金(=負債。借入金や学校債など)が373億円です。総資金に占める自己資金の比率は87.8%で、安定した財政状況となっています。

(学園財政の詳細は、計算書類 [http://www.ritsumeijp/public-info/public02\\_j.html](http://www.ritsumeijp/public-info/public02_j.html)、事業報告書 [http://www.ritsumeijp/profile/a08\\_j.html](http://www.ritsumeijp/profile/a08_j.html) をご覧ください)

## 2007年度末 総資産・総資金に対する構成比率



## 2008年度予算 ※当初予算



## 関連資料

### 学生1人が1年間学ぶのにかかる費用 ※2007年度決算による

<b>教育基礎経費</b>	871,519円 (55.7%)
<b>教育支援経費</b>	136,263円 (8.7%)
<b>教育条件整備経費</b>	557,448円 (35.6%)
<b>合計</b>	<b>1,565,230円</b>
学生1人あたり 学費	1,211,073円
学生1人あたり 補助金	167,934円

**【教育基礎経費内訳】**

教育・研究関係	141,852円
図書館関係	37,930円
国際交流関係	29,253円
情報システム関係	46,357円
教職員人件費	616,127円

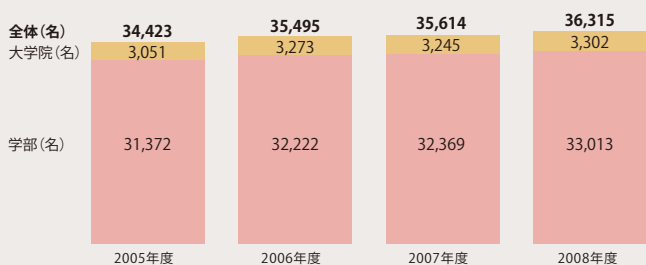
**【教育支援経費内訳】**

学生援助・就職支援関係	113,872円
健康管理	1,562円
学内広報(学園通信等)	7,899円
社会とのネットワーク	12,930円

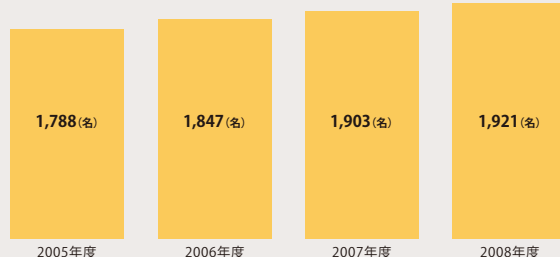
**【教育条件整備経費内訳】**

建物等改修	160,517円
建設・設備整備	236,988円
水光熱費	30,553円
清掃等環境整備	45,724円
学園運営関連	54,061円
借入金返済	27,546円
借入金利息	2,059円

### 学生数推移



### 教職員数推移



今回の交流は、本学と慶熙大学が締結している文化・スポーツ交流協定に基づき実施されたもので、今回で15回目を迎える。

### ■アメリカンフットボール部

#### 法政倒し、4年ぶり学生日本一 第63回甲子園ボウル優勝

(12月21日 長居陸上競技場)

アメリカンフットボール部パンサーズは法政大学トマホークスに19-8で快勝し、4年ぶり6回目の優勝。社会人代表のパナソニック電工と対戦する「ライスボウル」の出場切符を手に入れた。

宿敵の関西学院大学に勝利し、3年ぶりに「甲子園」に帰ってきたエンジの軍団・パンサーズは序盤から勢いをみせ、攻守ともに圧倒。前半を16-8で折り返すと、試合終盤にも3点を加え、勝負を決めた。法政大には3年前の対戦で敗れており、見事に雪辱を果たした。

立命館大学側のスタンドには大勢の学生、父母、校友が集まり、熱い声援を送るなど選手を後押し。選手と観客が一体になって勝利を手にした。



### 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス  
075-465-8167

### ■バトントワリング部

#### ジャパンカップ2008において優勝 2連覇達成!!

(9月7日 東京体育館)

ジャパンカップ2008マーチングバンド・バトントワリング全国大会が行われ、シニアの部で立命館バトンチームが見事優勝、2連覇を果たした。

### ■将棋研究会

#### 平成20年度秋期個人戦本戦(関西大会) において増本敬さん(経済2)が優勝

(10月26日 大阪市立大学)

平成20年度秋期個人戦本戦(関西大会)において、増本敬さん(経済2)が見事優勝を果たした。本大会の優勝・準優勝者は、関西代表として、12月23・24日に開催される学生将棋個人三大会の一つの第37回学生十傑戦(王将戦)に出場する。第37回学生十傑戦(王将戦)では、本学将棋研究会から4年連続の優勝者輩出に期待がかかる。

### ■E.S.S

#### 第51回末川杯争奪全日本学生 英語弁論大会で優勝

(11月22日 衣笠キャンパス 以学館1号ホール)

#### ケンブリッジ大学学生との 交流プログラムを実施

(9月23日～26日 衣笠キャンパス他)

イギリス・ケンブリッジ大学の公認学生劇団ペンブルックプレイヤーズが来校し、本学の学生たちと交流を行った。

#### ■初芝高等学校文化祭に 立命館大学のJAZZ CLUBが ゲスト出演

(9月23日 初芝高等学校)

初芝高等学校にて開催された文化祭に、立命館大学のJAZZ CLUBがゲスト出演した。

### ■第6回京都学生祭典開催

(10月11日～12日 京都市内)

「祭りであつなげ! ～ひと・地域・未来の架け橋～」をテーマに多くの企画が行われた。また、環境企画として、京都の産・官・学・地域が連携し、「KYO-SENSEプロジェクト」や地域との夜間パトロール等を通じた交流など新しい取り組みも行われた。



### ■立命館アジア太平洋大(APU)

#### 天空祭に立命館大学から 7団体(約100名)が参加

(10月25日～26日 APU)

立命館アジア太平洋大学(APU)の学園祭「第6回天空祭」に、立命館大学の課外活動団体(7団体・約100名)が、出演・出展による参加をし、APU学生と共に天空祭を盛り上げた。



#### ■「滋賀 教育の日」草津市立 志津南小学校プログラムに 立命館大学から4団体が参加

(10月27日 草津市)

2007年から始まった「滋賀 教育の日」志津南小プログラムは、子供たちと地域の企業・大学との様々な取り組みについて保護者や地域の方に広く公開し、子供達に最先端の科学と文化に触れてもらう機会を得る事を目的に行っている。ダブルタッチサークル(Fusion of Gambit)、情報理工学部PJ団体ロボカップシミュレーション部門(Ri-one)、ライフサイエンス研究会、サッカーサークル(エルベトウ)の4団体が参加した。

### ■BKC・衣笠キャンパス 学園祭開催

(11月8日～9日BKC、15日～16日衣笠キャンパス)

今年の学園祭は「COLOR～一人ひとりの個性が響く Rits Festival～」をテーマに、学生それぞれが個性を主張し、励ましあい、今後の大学生活に活かしてもらいたいという願いが込められている。両キャンパスの模擬店では、環境に配慮し、全店舗の食器に「フィルムトレイ」を使用し、実行委員の学生が回収、洗浄作業を行った。ステージで活躍する学生の他にも、舞台の運営や清掃活動を行い一体となって学園祭を盛り上げた。



# 学生のスポーツ & イベント

## スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター  
075-465-7863

### 卓球部女子

#### 第75回全日本学生卓球選手権大会 二冠達成の快挙!

(10月9日～12日 東京武道館)

##### ▶女子シングルス優勝

若宮三紗子(産社1)

##### ▶女子ダブルス優勝

宇土弘恵(産社2)・若宮三紗子(産社1)組

本学卓球部における全国大会での個人戦シングルス優勝は創部初の快挙。



### 相撲部

#### 第16回世界相撲選手権大会軽量級 島子隆司さん(産社2)が優勝

(10月12日 エストニア共和国ラクヴェレ市ラクヴェレスポーツホール)

世界の国と地域から予選を勝ち上がった22名で競われた軽量級(85kg未満級)試合。初戦から準決勝まで桁違いのパワーを持つ外国人選手に対し、持ち前のスピードと相撲のうまさで、順当に勝利を重ね、世界一の栄冠を勝ち取った。



### 男子陸上競技部

#### 第20回出雲全日本大学選抜駅伝競走 で史上初の全国駅伝7位

(10月13日 出雲大社～出雲ドーム)

6年連続9回目の出場となる立命館大学

は、地元島根県校友会と父母教育後援会の強力なバックアップを受けた応援の学生たちが熱い声援を送る中、アンカーの藤原庸平さん(経済3)が中央大学の猛追をかわし7位でゴールした。立命館大学男子陸上競技部が駅伝全国大会で入賞したのは初めての快挙だ。

### 女子陸上競技部

#### 全日本大学女子駅伝優勝(3連覇)!!

(10月26日 宮城陸上競技場)

「杜の都」仙台市の宮城陸上競技場から仙台市役所前市民広場までの6区間、38.6キロで行われ、立命館大学女子陸上競技部が3連覇を達成、史上最多の5回目の優勝を飾った。また3区、4区、5区では新記録更新をした。



### 硬式野球部

#### 秋季リーグで3季ぶり優勝

(9月6日～10月30日 西京極球場他)

#### 第39回明治神宮野球大会ベスト4

(11月15日～19日)

10月30日の立同戦第3戦では、同志社大学に3-1で勝利し、3季ぶりとなる優勝を果たした。立命館は1回に乗替寿朗主将(産社4)のタイムリー2塁打で2点を先制。その後、3回にも1点を追加した。投げたのは先発の藤原正典投手(文3)が完投でリードを守りきった。

また、第39回明治神宮野球大会では全国ベスト4の成績を残した。

### 弓道部

#### 関西一部リーグ

#### 男子部、女子部共に優勝

(9月21日～11月2日 近畿大学道場他)

▶男子団体優勝(3年連続8回目)

▶女子団体優勝(2年ぶり8回目)

男子部においては4戦全勝で3年連

続8回目のリーグ優勝、女子部においては3勝1敗と優勝決定戦を制し2年ぶり8回目のリーグ優勝を勝ち取り、2003年、2006年に続き3回目の男女アベック優勝となった。

また、11月23日・24日に開催された選抜大会では男子がベスト4に入った。

### 男子バスケットボール部

#### 第60回全日本大学バスケットボール 選手権記念大会、白熱の試合を展開

(11月29日 国立代々木競技場第二体育館)

11月29日には、第60回全日本大学バスケットボール選手権大会に男子バスケットボール部が出場。結果は惜しくも68-57で青山学院大学の勝利となったが、優勝候補の筆頭である第1シードの青山学院大学を相手に前半までリードする白熱の試合を展開した。

### ラグビー部

#### 全国大学選手権出場決定

(11月30日 関西リーグ 近鉄花園グラウンド)

11月30日、ラグビーの関西大学リーグの最終節で大阪体育大学に12-11で勝利し、4勝3敗として4位以上が確定、全国大学選手権大会への出場が決まった。

### ホッケー部

#### 男子ホッケー部

#### 全日本男子選手権大会で優勝!!

(12月14日 親里ホッケー場)

第82回全日本男子ホッケー選手権大会決勝で、立命館大学は山梨学院大学に3-1で勝



りし、7年ぶり2回目の優勝を決めた。

試合後、山口修一郎監督('79法)は「苦勞の多いシーズンだったが、最後にベストゲームができて本当によかった」と喜びを隠しきれない表情で語った。また、この決勝でも2得点を挙げた太田翔主将(産社4)が最優秀選手に選ばれた。

#### 女子ホッケー部が

#### 韓国・慶熙大学女子ホッケー部と交流

(9月22日～25日 韓国・慶熙大学)

学園の新たな展開

スポーツ健康科学部(仮称)・  
スポーツ健康科学研究科(仮称)を  
二〇一〇年度に設置予定

二〇一〇年四月、「スポーツ健康科学部」・「スポーツ健康科学研究科」(仮称)を、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に設置する準備を進めることになりました。身体活動やスポーツによる心身の健康づくりを担う人材育成と研究を進めていきます。

現在BKCで開講しているスポーツ科学やスポーツマネジメント、健康科学などの科目を核にして学部として独立させます。理工・生命科学などBKCの他学部や、衣笠キャンパスの産業社会学部スポーツ社会学専攻と連携し、スポーツ科学、健康科学を総合的に展開します。

この新学部・大学院では、文理融合と学際分野の研究に加え、産学と地域の連携を重視し、企業や自治体との共同事業に取り組む予定です。また学部には保健体育教員健康運動指導士などを目指すカリキュラムを用意し、少人数教育で国や自治体の政策や地域での実践でリーダーシップをとる人材を育てます。

裏千家・池坊・市立芸術大学・  
平安女学院と協定を締結  
―日本・京都文化を社会に発信

十月二日、平安女学院大学有栖館(旧有栖川邸)において、池坊華道会、裏千家今日庵、京都市立芸術大、平安女学院大と包括協定を締結したことを発表しました。華道と茶道を中心とする日本・京都の伝統文化を学術的に共同研究し、社会に発信することを目的としています。

これまでも立命館大学・平安女学院大学

と池坊、裏千家は教員派遣など個別の連携がありましたが、京都の文化力をさらに高め発信するには「連携枠の拡大が不可欠」と考え、協定を締結しました。事務局は立命館大学に置きます。



立命館大学としては、この連携を機に、これまでの文部科学省21世紀COEプログラム(京都アート・エンタテインメント創成研究)、「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究」、グローバルCOEプログラム(日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点)、「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」の採択や、二〇〇九年度から文学部に「京都学プログラム」を新設する実績をもとにして、「京都学」の確立を目指します。図書館や資料館の相互利用や講師の相互派遣、単位互換で結びつきを強め、研究成果を広く伝える公開講座の開講も予定しています。

文部科学省  
教育G P・大学院G Pに採択

このたび、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」(以下、教育G P)の「教育方法の工夫改善を主とする取組」分野で二件、「大学院教育改革支援プログラム」(以下、大学院G P)では三件が採択されました。G Pは、教育の質の向上につながる取組や、社会で高度な活躍のできる

人材育成を行う大学院での教育取組に対して、文部科学省が重点的な財政支援を行うものです。

本学から採択されたプログラムは次のとおりです。

学部	プログラム名
教育G P	プログラム名
政策科学部	地域社会問題を学生創造力で解く学びの仕組、教育の枠組みによる問題解決型社会貢献と「学びのカフェテリア」導入・展開
全学 (教育開発推進機構)	教育の質を保証する教員職能開発と大学連携、大学間連携を通じた実践的FDプログラムの開発ならびに大学教員に求められる教育力量と職能の提案

大学院G P	プログラム名
研究科	プログラム名
社会学研究科	海外大学共同による比較社会調査研究型教育、アジアと欧米をつなぐ国際的な社会調査研究のスペシャリスト育成
国際関係研究科	国際協力の即戦力となる人材育成プログラム「平和構築と開発」の実践と有機的に連携する大学院教育の創造
政策科学研究科 公務研究科	地域共創プロフェッサー育成プログラム、政策現場への派遣型客員研究職創設による新たなキャリアパスデザイン

学生の活躍

第三回 新司法試験に  
五十九名が合格

二〇〇八年度新司法試験において、立命館大学法務研究科(法科大学院)修了者からは五十九名が合格いたしました(全国九位)。全国の大学における合格者数は次のとおりです。

順位	大学院名	合格者数
1	東京大学	200
2	中央大学	196
3	慶応義塾大学	165
4	早稲田大学	130
5	京都大学	100
6	明治大学	84
7	一橋大学	78
8	神戸大学	70
9	東北大学	59
9	立命館大学	59
9	同志社大学	59

防犯地図を  
草津市内小・中・高校へ  
配布、嘉田知事ともパトロール

防犯ボランティアサークル「Bridge(ブリッジ)」が、JR南草津駅周辺の犯罪発生状況や交通危険箇所などをまとめた「地域安全マップ」を作成しました。

サークルは二〇〇五年に設立。これまで同駅付近で、あいさつ運動を兼ねたごみ拾いや防犯パトロールなどを行っており、今年十月には、防犯活動に貢献した個人・団体に贈られ「なくそう犯罪 滋賀安全なまちづくり大賞」を受賞しました。

マップ作りは二〇〇六年度から着手し、二〇〇七年十一月には、キャンパス周辺で一人暮らしをする女子学生百二十三人を対象にアンケートを行い、遭遇した事件や事故の発生場所、概要などを尋ね、実際に回答の多かった場所に向いて調査しました。

マップはA3判で表に地図、裏には危険への対応策などを掲載。キャンパス内で配ったところ好評だったため、





草津市内の小中学校、高校などにも提供することとなりました。大学のホームページ (<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/cm/sokan/bouhan/bouhan.html>) でも閲覧できます。

十二月六日には、滋賀県・嘉田由紀子知事と懇談の場をもつことができました。「防犯活動を通じて見えたもの・感じたもの」について意見交換をし、その後知事と防犯パトロールも行いました。

### 生協と協力して

### チャリティイベントを企画

― 四川・ミャンマー、被災地の食を紹介

中国・四川大地震とミャンマーのサイクロン災害の被災地復興を支援しよう、学生たちが生活協同組合と協力し、チャリティイベントの提供を十月中旬より始めました。衣笠とびわこ・くさつ両キャンパスの生協食堂で、売り上げの



一割を募金とします。

支援を呼び掛けているのは、国際協力や留学生サポートなどに取り組む団体の学生たち。中国・四川とミャンマーの食文化を紹介し身近に感じてもらうながら、被災地の学校再建などへの協力を求めています。

初日には、四川風ママーポ（豆腐とミャンマー風春雨いため「チャーザンタオ」）がメニューに並び、被災地の写真パネルの掲示とともに、学生たちがチャリティメニューの利用を呼び掛けました。

二〇〇九年五月まで二週間ごとにメ

ニューを入れ替えて実施します。今後は災害復興支援を続けているインドネシア料理なども提供する予定です。

### 研究の成果

### 木立雅朗文学部教授により 東山・道仙化学製陶所窯跡の 全容が判明

文学部の木立雅朗教授は、京都市東山区の「道仙化学製陶所」跡の発掘調査で、窯跡の全容が明らかになったと発表しました。「道仙化学製陶所」は、明治期から一九六二年まで漏斗や乳鉢などの化学陶磁器を製造していた登り窯で、操業停止後に一部を壊して放置されていました。

木立教授と学生は二〇〇五年から調査を開始。化学陶磁器のほかに、清水焼の独特の道具や破片も出土し、清水焼の技術が近代の工業製品にも生かされていたことがうかがえるといえます。

今回の発掘で初めて窯跡全体が姿を現しました。全長は十一メートル、幅は四・六〜五・一メートルで、ウナギの寝床のような敷地にうまく配置されていました。窯内部に六室がある構造は五条坂周辺に残るほかの登り窯五基と同様でしたが、基礎や壁を何度も修復していた跡が確認されました。

木立教授は「京都の化学陶磁器の生産は、清水焼の生産現場との交流の中ではぐくまれてきたが、逆に窯が町中にあつて大規模化が難しいために衰退したと考えられる」と語っています。



### 立命館にはプラスRがあります。 JR京都駅において 「なりたい自分プラスRキャンペーン」を実施

十一月一日、JR京都駅において、「なりたい自分プラスRキャンペーン」を実施しました。



この企画は「オール立命館校友大会2008」の一環として校友・学生を含む一般市民を対象に行われたものです。ひとりひとりが将来の自分自身について考えるきっかけを見つけて欲しい、「なりたい自分を見つけてよう」というものです。英単語の形容詞や動詞に「+R（立命館）」を付して、なりたい自分を探してもらいます。例えば「CHALLENGE」に「+

今後も入学式等のイベント時に同キャンペーンの実施を予定しています。

R」とすると「CHALLENGER」となります。このような自分のなりたい将来像について、用意された様々な缶バッジから参加者を選んでもらいます。また、キャンペーン会場には、川口清史総長と校友・古田敦也さんが龍安寺で並んで座る大きなポスターを掲示し、同寺の石庭を見立てた「立命館の庭」を製作しました。

当日は十三時から開始しましたが、十六時には準備した二千個の缶バッジ全てがなくなり、キャンペーンは大盛況のうちに幕を閉じました。「立命館の庭」では記念撮影する方も多く見られました。



## 2008年度後期 立命館大学卒業式・学位授与式

### ■びわこ・くさつキャンパス 2009年3月20日 [金・祝]

	時 間	対 象 学 部	場 所	父 母 予 備 会 場
第1回	午前10時～	理工学部 情報理工学部	BKCジム	コーニングハウスI C101号
第2回	午後1時30分～	経済学部 経営学部		

### ■衣笠キャンパス 2009年3月21日 [土]

	時 間	対 象 学 部	場 所	父 母 予 備 会 場
第1回	午前10時～	国際関係学部 政策科学部 文学部	第一体育館	以学館 2号ホール
第2回	午後1時30分～	法学部 産業社会学部		

なお、卒業合否発表は、2009年3月11日(水)午前10時、各学部掲示板およびホームページに掲載されます。  
卒業式にご出席の方で、手話通訳が必要な場合は、1月23日(金)までに各学部事務室へご連絡ください。

## 2009年度立命館大学一般入学試験要項・願書

**金額** 1,000円 (立命館大学・立命館アジア太平洋大学セット)

※ただし、電話、インターネット、テレメールでお申し込みの場合、1,300円(送料300円込)になります。

ご希望の方は、下記のいずれかの方法でご請求ください。

書店での購入	全国主要都市のデパート・有名書店で販売中
電 話	立命館配送センター〈フリーダイヤル〉0120-085177 受付時間：月曜日～金曜日(土・日・祝除く) 9:00～17:00 ※2008年12月26日～2009年1月6日は受け付けません。
インターネット	Rits Net <a href="http://www.ritsumeai.ac.jp/ritsnet/">http://www.ritsumeai.ac.jp/ritsnet/</a> →資料請求
テレメール	24時間コンピューター自動音声受付音声ガイダンスにしたがって操作してください。 IP電話 050-2015-0555 ※IP電話への通話ができない等の場合は06-6222-0102へおかけ下さい。 資料番号 立命館大学 [160001]、立命館アジア太平洋大学 [160416]

### 父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは  
保護者の皆さまへ▶立命館大学父母教育後援会をクリック

最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会をいかなる団体にも一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

本誌は学部に登録された学生の保証人住所に送付しています。住所を変更された場合は、学生本人から学生証を持って各学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。